

警察庁案内



〒100-8974 東京都千代田区霞が関2丁目1番2号 警察庁長官官房人事課総合職技術系採用担当 Eメール: jinji-recruit-tech@npa.go.jp

採用HP:

https://www.npa.go.jp/about/recruitment/index.html#sougougijutsu



► YouTube 警察庁PR動画







警察行 いざな

警察庁サイバー警察局長

青森県警察本部警務部長

平成29年3月 警察大学校サイバーセキュリティ対策研究

警察庁情報通信局情報技術解析課長兼警備局付 警察庁サイバー警察局長

奈良県警察本部長

警察庁サイバー警察局サイバー企画課長

警察庁長官官房審議官(サイバー警察局担当)

警察庁技術系総合職に求めるもの

今、サイバー空間は、誰もが参画し、重要な社会経 済活動が営まれる公共空間へと変容を遂げています。 金融、鉄道、航空、電力、水道といった国民生活や社 会経済活動に不可欠な社会インフラは、国家や地方公 共団体の機能を支える基盤にもなっており、あらゆる 場面で実空間とサイバー空間が融合した社会が到来し つつあります。

また、インターネットの普及を経て、生成 AI をは じめとした新しい科学技術の登場により、様々な分野 で爆発的なイノベーションが進み、社会経済活動に大 きなインパクトを与えるとともに、我々の普段の生活 様式・行動様式にまで大きな変化をもたらす時代と なっています。

新しい科学技術は社会に、我々に、大きな恩恵をも たらす一方で、サイバー事案をはじめとする技術を悪 用した犯罪が増加しているのも現実です。

実際に、止まるところを知らないランサムウェアの 感染被害では、当該被害組織のみならずサプライ チェーンを構成する事業活動や地域の医療提供体制に 影響が及んだ事例が確認されたほか、先端技術の研究 機関をはじめ、研究者個人、政府要人、報道関係者を 標的としたサイバー攻撃が明らかになるなど、極めて 深刻な状況下にあります。

また、生成 AI の偽・誤情報への悪用、高度化した 自動翻訳機能の国境を越えた犯罪への悪用の拡がりな どが懸念されるところです。

その中で、今、警察には、社会の変革につながる技 術のイノベーションに適切に対応するための組織的な 能力向上が求められています。そして、警察における 技術政策の重要性は増すばかりです。

警察庁を志望される皆さんにとって、警察の業務は およそ経験したことのない新たな分野であると思いま す。そのため、業務を進めていく上では、強いチャレ ンジ精神を発揮してもらわなければなりません。

大学などで得た技術系の知識とセンスが必要なのは もちろんのこと、未知の分野の研究等を通して得た真 理を追い求める科学的探究心を持ち、失敗を恐れず、 集中的・持続的にチャレンジするモチベーションを維 持できることが重要です。

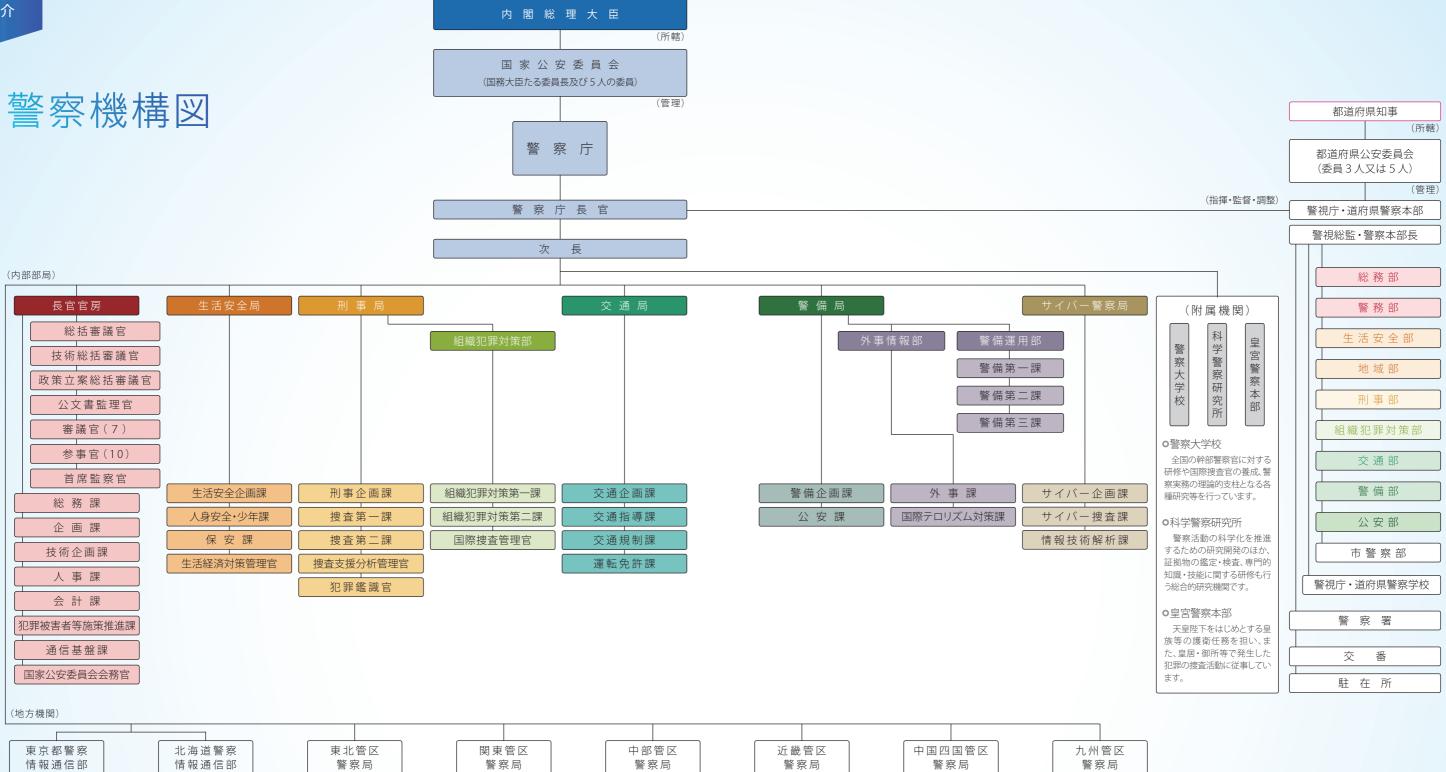
特に、社会情勢の変化をもたらす新しい技術のイ ノベーションについて適切に把握し、対応するため には、警察組織のイノベーションを担うアイディア を創出し、そのアイディアを具現化する能力、大量 のデータを分析・解析し、進むべき方策を探る能力、 新たな技術がもたらす社会変化の有り様を見通す先 見性も必要となってきます。

私たちは個々の職員の意見やアイディアを大切に するとともに、多様な視点と経験を通じたチーム ワークや協力が組織全体の力を高めると信じていま す。皆さんのような新しいメンバーが加わることで、 私たちの組織はより強力になり、より効果的な捜査 活動や対策に取り組むことができるようになると考 えています。

一人の警察職員として、被害者に寄り添い、犯罪 者への対決姿勢を持ち、国民の安全・安心を守る正 義感に溢れ、また、警察組織のリーダーとして豊か な人間性が発揮できる方をお待ちしております。







沿革

我が国の警察は、明治7年、当時の内務省に警保寮が設置されて以来、第二次世界大戦の終了まで、中央では内務省警保局、地方では知事によって管理運営されてきました。戦後の昭和22年に警察法が制定され、23年から国家地方警察と市町村自治体警察の二本立ての制度となりましたが、その後、29年に警察法が全面的に改正され、警察運営の単位が現在の都道府県警察に一元化されました。

国の警察機関

国の警察機関として、内閣総理大臣の所轄下にある国家公安委員会の管理の下に警察庁が置かれ、全国的視野から治安維持の責務を担っています。「所轄」、「管理」とは、他省庁におけるような直接的な指揮監督関係との相違を意味する言葉で、その趣旨は、警察の政治的中立性を確保することにあります。また、警察庁は各種国際会議の主催・参加や国際刑事警察機構(ICPO)への幹部の派遣等、「治安先進国日本」の警察として、各国警察との協力や、国際的な活動を積極的に行っています。

都道府県の警察組織

都道府県には、都道府県知事の所轄下に ある都道府県公安委員会の管理の下に都道 府県警察が置かれています。都道府県警察 には、警察本部、警察署が設置されており、 さらに、警察署の下部組織たる交番、駐在所 のネットワークが全国に張りめぐらされ、安 全で住み良い社会づくりを目指しています。

警察庁と都道府県警察の関係

都道府県警察はその管轄区域における 一切の第一次的治安責任に任ぜられています。警察庁は、全国警察組織の中枢を 占める中央官庁として、国家的・調整的 見地から治安責任を担い、その所掌事務 について都道府県警察を指揮、監督、調 整しています。

警察職員

治安維持の責務は国家社会の根幹に関わる重大事であることから、警察全体の組織的一体性を確保するために、警察庁の職員はもちろん、都道府県警察の警視正以上の階級にある幹部警察官も国家公務員とされています。また、警察庁と都道府県警察との人事交流も活発に行われています。

長官官官

略歴 警察庁長官官房企画課課付 令和4年4月 警察庁サイバー警察局情報技術解析課 警察庁長官官房企画課兼情報通信局情報 警察庁長官官房企画課課付 警察庁情報通信局情報技術解析課係長

総務課

会計課

関する業務を行っています。

警察庁の「屋台骨」

広報、情報公開、留置管理、国会との連絡調整 等の幅広い業務を行っています。

カネとモノで警察をサポート

予算の要求・執行、警察装備資機材の企画・研

究開発、物品の管理・処分、会計監査、警察施設

の営繕等、警察活動を支える「カネ」や「モノ」に

企画課

全国警察のグランドデザインを描く

警察行政に関する総合的又は基本的な政策の企画・立案及び庁内の総合調整、政策評価、法令案の審査等を行っています。

犯罪被害者等施策推進課犯罪被害者を支える

犯罪被害者支援に関する各種施策の企画、立案 及び総合調整を行っています。

人事課

「人」の組織を支える

未来の警察組織を担う人材の採用、職員の人事 管理や研修・訓練に関する業務、職員のワークラ イフバランス向上に向けた取組のほか、福利厚生 に関する業務など、警察組織全体の人的基盤の充 実強化に取り組んでいます。

国家公安委員会会務官国家公安委員会を補佐する

警察庁を管理する国家公安委員会を補佐しています。

長官官房の業務

「長官官房」とは

「警察の仕事」から皆さんは何を想像するでしょうか。パトロール、事件捜査、交通違反の取締り、要人警護、といったあたりが出てくるかと思います。では、警察職員がそうした活動をするためには何が必要でしょうか。どの部門で活動するにしても、警察学校での研修、犯人と対峙するための装備品、取り締まるための根拠となる法令の整備などが欠かせません。そうした、警察のどの部門にも関わるような部分を支えているのが、「長官官房」の主な役割です。生活安全、刑事、交通、警備、サイバーといった各部門と連携しながら、警察が抱える様々な課題に組織ー丸となって対応をしているのです。

「オンライン化」に向けた検討

私が所属している企画課では、警察行政に関する総合的・基本的な政策の企画・立案や法令案の審査等を行っています。その中でも、私は、警察が所管する各種行政手続をオンライン化する業務に携わっ

ているところです。オンライン化するといっても、 ただ技術的にシステムを開発すればいいだけではな く、例えば、行政手続の根拠となっている各種法令 に沿ったものになっているかといった点にも気を配 る必要があります。

様々な法令や行政手続に接する環境であり、自分の知識として新たに吸収できることが多く、業務を通じて成長できる日々を送っています。

▲ 働きやすい職場づくり

社会情勢の変化に応じた様々な課題に対処することは言うまでもなく重要であるものの、良いアウトプットを出すためには、職員一人一人がその力を十全に発揮できるような職場環境を醸成することも大事な要素なのではないかと考えています。

警察庁では、効率の良い働き方、良好な業務関係の 構築、モチベーションの維持等、職員個々がその力 を発揮できるような制度設計について庁内の有志の 職員で検討する取組もあります。

警察業務に少しでも興味のある方の来庁を、是非、 お待ちしております。

VOICE _{若手の声}

警察から世界を見つめる

皆さんは、警察における国際業務というと、何をイメージするでしょうか? 海外での犯罪捜査を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、実は警察の仕事 はそれだけではありません。人や情報が軽々と国境を越えるこの時代に、日本の 治安を守るためには、諸外国と協力関係を築くための「外交」が必要不可欠です。

私は現在、長官官房企画課で警察庁の国際業務の窓口を担当しています。条約交渉、外国警察の視察の受け入れ、ウクライナ支援、G7等の国際会議の対応など扱う案件は多岐にわたり、いずれも、刻々と変化する国際情勢に即した臨機応変な対応を求められます。予想外の事態に戸惑うことも多いですが、経験を積む度、自分の視野が世界に広がっていくのを実感しています。

警察庁のほかの部署とアプローチは異なりますが、目指すものはひとえに人々の安全・安心です。このように色々な切り口から日本の治安維持に携わることができるのも、警察庁の魅力であると思います。

警察庁長官官房企画課(国際)係長

●略歴

令和3年4月入庁

令和4年6月

警察庁長官官房技術企画課情報化担当参事官室

令和5年7月

警察庁長官官房企画課(国際)係長

技術部門



技術企画課

警察の技術政策の司令塔

警察活動の高度化・効率化に向けた科学技術の利活用と、科学技術の発展 に伴い新たに生じる治安情勢への対応に向けて、警察における技術政策を総 括しています。

通信基盤課

「警察の神経系統」を支える

組織的かつ迅速・効率的な警察活動の基盤となる全国の警察本部・警察署 等を結ぶ警察通信のネットワークの整備・運用等を行っています。

技術革新へのキャッチアップ

潮流への対応

近年、新しい技術が急速に進展し、社会における大きな変化をもたらしています。これらは、人工知能(AI)、モノのインターネット化(IoT)、ドローンなどの新規技術に代表されますが、従来からの情報システムについても、単なる「デジタル化」の域を超える、大きな渦が巻き起こっています。

こうした変化は、新たな脅威の出現といった側面 もありますが、警察活動の高度化・合理化に寄与す る可能性を秘めており、組織一丸となって対応して いるところです。

例えば、警察が変わらぬ責務を果たし続けるため、 幅広い先端技術や情報システムを積極的に導入する ことにより、警察活動の高度化・合理化を推進した り、激甚化・頻発化する自然災害の中でもその機能 を維持するため、あらゆる警察活動に不可欠な基盤 として全国に整備した警察無線システムなど独自の 情報通信インフラを、新たな技術を活用して堅牢化・ 高度化したりしています。

警察活動は多岐にわたるところであり、将来への 課題も山積しています。そういった課題を技術的な 方策により解決すべく、適用技術の見極め・導入を 行い、警察組織全体の効率を上げることが、長官官 房における技術部門の任務となっています。

| 大胆な発想力・変革

現在、警察では、「人口減少に伴いマンパワーが減少し、国・地方予算も中長期的に拡大が困難となっていく反面、新たな犯罪への対策等警察活動へのニーズはますます増加している」という課題に直面しています。この局面を打開するには、事象の本質を見極め、前例にとらわれない発想と、それを実行していく知恵・力が求められますが、何かを成し遂げられたときの達成感は何事にも変えがたいです。

日本の未来を見据えて

今、日本警察は大きな転換期を迎えています。今のアクションが、今後の警察の未来となる。こうした志を持ち、躊躇することなく勇気を持って改革に取り組んでいただく気概を持つ皆さんと働けることを、心待ちにしています。



時代に合わせた「警察通信」を追求する

警察庁長官官房通信基盤課課付

警察ドラマを観ていると、警察官が警察無線を使っている場面を目にすることがあると思います。このような、警察無線をはじめとした警察活動の基盤となる全国規模のシステムを整備・維持しているのが、通信基盤課です。今、私は予算要求の業務を担当していますが、前述したように、整備しているのは全国規模のシステムであるため、警察活動に与える影響も大きく、大きな責任とともにやりがいを感じています。

低軌道衛星を利用した通信が災害現場等で利用されるなど、技術革新により、 日々実現可能なことが増えている今、既存の技術やシステムにとらわれず、常 に柔軟な発想で警察通信の将来像を描くことが大切です。警察通信をその時代 に合わせた最適な形へとアップデートし続けていくためには、様々な問題意識 や着眼点を持った人々が知恵を出し合うことが必要であるところ、警察庁には、 各々が自分の強みを発揮することのできる環境があると感じています。

今後も、時代に合わせた警察通信を追求していくため、様々なバックグラウンドを持った皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

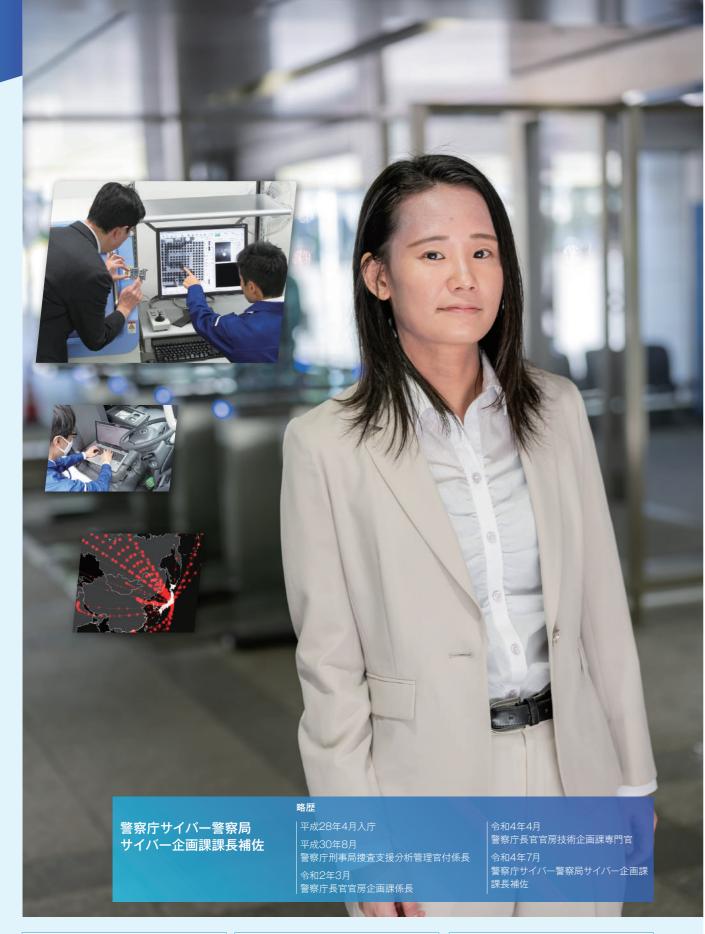


●略歴

平成31年4月入庁 令和2年7月 警察庁情報通信局通信施設課係長 令和3年2月 警察庁長官官房企画課係長 令和4年7月 警察庁刑事局刑事企画課係長 令和5年7月

警察庁長官官房通信基盤課係長

局



サイバー企画課

サイバー事案対策のオペレーター

サイバー警察に関する制度や運営に関する企画・立案及び法令の調査・研究のほか、官民連携等を通じたサイバー事案の被害防止対策、サイバー空間の情勢に関する情報収集・分析、サイバー警察に関する国際的な枠組みへの参画等に関する事務を行っています。

サイバー捜査課 捜査を通じた サイバー空間の安全確保

サイバー事案の捜査に関する企画・立案、サイバー事案の情勢及び手口の分析のほか、外国捜査 機関との連携、都道府県警察やサイバー特別捜査 部が行うサイバー事案の捜査に関する指導・調整 等を行っています。

情報技術解析課技術のスペシャリスト

捜査で押収した証拠品の解析など、情報技術を 用いて、警察が行う犯罪の取締りを支えています。 また、こうした技術を生かし、サイバー事案に用 いられる不正プログラムの解析、サイバー空間の 脅威や脆弱性の調査・分析のほか、解析能力向上 のための取組を行っています。

サイバー空間の脅威に立ち向かう

社会構造の変化に伴うサイバー空間の変貌

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機として、リモートワーク、インターネットショッピング、オンラインでの行政手続といったように、多くの社会経済活動がオンラインで実施されるようになり、サイバー空間はますます誰もが利用する身近な環境となりました。

しかしながら、サイバー空間においては、例えば、フィッシングメールによる情報窃取、匿名性を悪用した詐欺や誹謗中傷、ランサムウェアによる金銭要求といった犯罪行為も横行しており、時には遠く離れた国家間の紛争が、サイバー空間を介して我が国に影響を及ぼすこともあります。

サイバー空間上の脅威への対処に向けて

このようなサイバー空間上の脅威に対処するため、サイバー警察局においては、サイバー事案の捜査指導や実態解明、被害の未然防止・拡大防止に向けた対策、対処能力の強化に向けた取組を推進しています。

また、国の捜査機関であるサイバー特別捜査部に おいては、政府機関や重要インフラに支障を及ぼす ような事案、高度な技術を必要とする事案等への対処に向けて、関係部門や全国警察と連携して捜査、情報分析等を行っています。さらに、国境を越えて敢行される事案に対しては、外国捜査機関との情報交換や国際共同捜査への参画も推進しています。

| 多様な主体との連携

サイバー空間の安全・安心の確保に向けては、警察を含め、一組織で十分に対応できないことが多くなっています。サイバー空間で提供されるサービスの犯罪悪用への対策に向けてはサービスを提供する企業側での対応が必要であり、また、最新の技術や実態については各企業が保有する情報もあることから、官民の連携が欠かせません。さらに、サイバー空間は世界と地続きの環境であるため、外国の関係機関等との連携も必須です。

このように、サイバー部門では、様々なステークホルダーと共に施策を進める場面が多く、多様な考え方を知る機会に恵まれています。サイバー警察局は比較的新しい組織であり、これから新たに着手していく事項も多い環境ですので、様々な視点を持った皆様の活躍を心待ちにしています。



技術の進歩とともに

これを読んでいる皆さんが最初に手にしたのは携帯電話(いわゆるガラケー)でしょうか、それとも最初からスマートフォンだったでしょうか。社会全体のデジタル化が進展している現代では、次々と新たな電子機器が登場し、使用される技術も変わっていきます。そして、新たな技術が当たり前のものとなるほど、それが犯罪の現場でも使用される可能性が高くなっていくのです。

私の所属する情報技術解析課では、このような犯罪に利用された電子機器や 不正プログラムの解析、インターネット上のぜい弱性探索行為の観測等を通し て、犯罪やサイバー空間の脅威に対する警察活動の技術面を担っています。

新たに登場した技術に対して警察が対応し続けられるよう、解析手法の開発や犯罪に悪用されうる最先端の情報通信技術の調査・研究を行っているほか、職員の育成や資機材の整備を行うなど、警察組織全体としての技術力の確保・向上に取り組んでいます。

変化していく時代の中で、高度な技術力を有した組織であるために、様々な検討を行っていく業務に技官としてのやりがいを感じています。

警察庁サイバー警察局 情報技術解析課係長

●略歴

令和2年4月入庁

令和3年6月 警察庁情報通信局情報管理課係長

令和4年2月

警察庁長官官房企画課係長

令和5年4月

警察庁サイバー警察局情報技術解析課係長

生活安、

略歴 | 平成28年4月<u>入</u>庁 警察庁生活安全局保安課課長補佐 警察庁サイバー警察局情報技術解析課 課長補佐 警察庁情報通信局情報通信企画課係長 令和6年3月 警察庁生活安全局保安課課長補佐 警察庁交通局交通企画課自動運転企画室係長 経済産業省大臣官房デジタル・トランスフォ メーション室係長(のち室長補佐)

生活安全企画課犯罪の起きにくい社会へ

地域住民の安全安心を脅かす犯罪の抑止対策、犯罪被害に遭いにくい安全 安心なまちづくりの推進、警備業・古物営業等の適正化等、市民生活の安全 と平穏の確保、犯罪の予防に関する事務や交番・駐在所を拠点とした地域警 察官の活動等に関する事務を行っています。

保安課

良好な生活環境の保持のために

風俗営業の適正化、銃砲等及び刀剣類・危険物の規制等の行政事務に加え、 売春・人身取引関係事犯や賭博等の風俗関係事犯の取締り等に関する事務を 行っています。

人身安全·少年課

人々の命とこどもたちの未来を守るために

人身の安全を早急に確保する必要のあるストーカー、DV、児童虐待等への対策に関する事務や、少年事件の捜査体制の充実・強化等の少年非行防止対策、児童ボルノの製造等のこどもの性被害に係る対策に関する事務等を行っています。

生活経済対策管理官

生活経済事犯(利殖勧誘事犯等の悪質商法、ヤミ金融事犯、食の安全に係る事犯、保健衛生事犯、環境事犯、知的財産権侵害事犯等)の取締り等に関する事務を行っています。

誰もが安心して暮らせる社会のために

↓ 生活安全局のミッション

生活安全局では、「市民生活の安全と平穏の確保」というミッションの下、防犯施策、交番を拠点としたパトロール、ストーカー対策、DV対策、児童虐待対策、少年非行防止、良好な風俗環境の保持、悪質商法や環境事犯の取締り等、多岐にわたる施策を担当しています。

警察というと、犯罪捜査をイメージすることが多いと思いますが、地域住民と協働した防犯施策や業界への行政指導などの犯罪抑止施策を通じて平穏で安心できる暮らしを確保することも、警察の重要な役割です。

| 健全な遊技環境の維持

1990年代半ばには3,000万人と言われたパチンコ・パチスロの遊技人口は、今や770万人程度にまで減少しているものの、その市場規模は約15兆円と言われるほど、巨大なレジャー産業です。

使用した金額と比較して著しく出玉を獲得できる パチンコ・パチスロが販売され、パチンコホールで 遊技できるようになった場合、そのような性能に客 が魅了され、のめり込むおそれがあります。そのため、風営法において、そのような遊技機の販売を規制しています。

私はパチンコ・パチスロ等の規制に関する法令の 運用や関係団体との調整を担当しています。性能に 関する判断の一つ一つが、のめり込みを生む可能性 があるため、その責任は重大です。

上 誰もが安心して暮らせる社会のために

刑法犯認知件数が2年連続で前年比増となっているほか、SNS上で募集して行われる強盗や特殊詐欺、銃器等による事件など、安全・安心を脅かす事案が発生しており、犯罪情勢は、依然として厳しい状況にあります。

このような情勢の中、犯罪が起きにくい環境を確保することは非常に重要であり、健全な遊技環境の維持もその一つです。責任が大きい業務ではありますが、平穏で安心できる暮らしの確保の一翼を担っており、とてもやりがいのある仕事です。

誰もが安心して暮らせる社会のために、直面する 様々な治安上の課題に立ち向かいたいという志を 持った皆さんをお待ちしています。



デジタル社会に向けた警察の取組

生活安全局では、警備業や古物営業、風俗営業等の事業を所管しており、それぞれに対して必要な規制を設け、業務の適正化を図ることをもって犯罪の防止につなげています。その中で、私は現在、所管事業や行政手続に関わる業務を主に担当しています。

社会全体でデジタル化に向けた取組が推進されている今、中央省庁においても、所管事業に対する規制の見直しや、所管事業者からの各種申請等、行政手続のオンライン化の実現が求められています。こういった流れの中で、消費者保護の観点と事業者側の負担とのバランスを考えた規制の在り方や、対面でのやりとりを前提として作られている行政手続制度のオンライン化方法等について、法令面、運用面等の多面的な視点を持って検討を進めています。

自分の仕事が多くの業種の人々の仕事に関わっていくことに責任を持ち、事業所管省庁としての役割を通して、「犯罪の起きにくい社会」に貢献していると感じながら、日々業務に取り組んでいます。

警察庁生活安全局 生活安全企画課係長

●略歴

令和2年4月入庁

令和2年4月人 令和3年7日

警察庁情報通信局情報技術解析課係長

令和4年2月

警察庁長官官房企画課係長

令和4年7月

警察庁生活安全局生活安全企画課係長

刑 事

略歴 警察庁刑事局刑事企画課刑事指導室課長補佐 | 平成27年4月入庁 令和4年4月 警察庁長官官房技術企画課情報化担当 参事官室課長補佐 警察庁情報通信局情報技術解析課係長 亚成31年4日 警察庁刑事局刑事企画課刑事指導室 筑波大学大学院留学 課長補佐

刑事企画課全国の刑事の中枢、頭脳であり心臓

全国の刑事警察の司令塔として、刑事手続のIT化をはじめとする刑事警察に関する制度やその運営に関する企画及び立案、都道府県警察の捜査活法や刑事関係法や強査手制等令に関する調を所以ませる。と使査一般に関することを担当しています。

捜査第一課 凶悪事件と対峙する、 全ては被害者のために

社会に大きな不安を与える殺人、社会等や被害者る性 る殺人、大きな傷を与える性 犯罪といった凶悪事件、盗 をはじめとする所・人 の信か、略取誘拐・人機・ 可こむり事件や航空機・ 列車事故といった特殊事件 等の捜査に関する業務を担 当しています。

刑事局

捜査第二課 政治・行政・企業の 不正を糾す

政治や行政に対する国民 の信頼を揺るがし、あるい は我が国の経済・市場シス テムを内部から触む、贈収 期事件や選挙違反事件、入 机妨害・談合事件、企業包 係犯罪といった各種知能 罪の捜査に関する業務を担 当しています。

捜査支援分析管理官 社会の変化に適応 した捜査を

犯罪鑑識官 科学捜査で、姿の見え ない悪を追い詰める

法医学、化学、心理学等の知識及び技術を応用し、 指掌紋、足痕跡、現場遺留物、写真、DNA型等から捜 査を科学的、合理的に進め るなど、犯罪鑑識全般に関 する業務を担当していま す。

組織犯罪対策部

組織犯罪対策第一課戦略的な組織犯罪対策の展開

犯罪組織の壊滅・弱体化を図るため、暴力団や匿名・流動型犯罪グループといった犯罪組織に関する情報の集約・分析を行い、戦略的な組織犯罪対策の企画・立案等の業務を行っています。また、マネー・ローンダリング対策等を担う我が国の資金情報機関(FIU)として、疑わしい取引の情報を集約・分析し、結果を捜査機関に提供するなどしています。

組織犯罪対策第二課 深組織の壊滅と薬物・銃器のない社会を目指して

我が国の社会経済を触み、市民生活の平穏に対する重大な脅威となっている暴力団や匿名・流動型犯罪グループといった犯罪組織の弱体化・壊滅に向け、特殊詐欺、薬物・銃器犯罪をはじめとする組織犯罪及びマネー・ローンダリングの取締りに関する業務を行っています。

国際捜査管理官 国際犯罪の防波堤

来日外国人組織犯罪や国境を越えて活動する国際犯罪組織に対する総合的な対策を推進するとともに、国際刑事警察機構(ICPO-INTERPOL)や外国捜査機関との連携、国外逃亡被疑者の追跡捜査等に関する事務を担当しています。

技術力で捜査を支える

現代の犯罪捜査

「警察の仕事」と聞いて、多くの方が一番にイメージするのは犯罪の捜査ではないでしょうか。 刑事局では、全国警察に対する捜査指導や新たな捜査手法の検討などを行っています。

現代では、スマートフォン、IoT、AIなど、様々な科学技術が生活に溶け込んでいるため、犯罪対策や捜査手法について検討するにも、必ず技術の話が出てきます。理系の知識を持つ皆さんの力が必要不可欠です。

適正捜査を支える技術

国民の安全・安心を守る上では、法令に則った適正な捜査により、犯人を突き止めることが重要です。今、私は、刑事企画課で通信傍受に関する業務を担当しています。日本では、法律で定められた重大な犯罪に対しては、通信傍受を使った捜査が認められています。その実施の際には、専用の機器を使用し、警察が適切に通信傍受を行ったことを担保する

ための仕組みが定められています。私は、こうした機器を整備・運用し、通信傍受を行う捜査員への指導や質疑対応を通じて、全国警察の適正な捜査を技術力で支えています。

■技術で答えを探す仕事

技術の進歩とともに新たな犯罪が生まれてしまうこともありますが、警察において新たな活用手法も生まれます。例えば、最近では、刑事手続のIT化やAIを用いた捜査員の訓練についての検討が行われています。こうした新たな技術の活用について検討するためには、技術的知見と法令の理解、そして捜査員のニーズの把握が必要です。技術系という立場から犯罪捜査のあるべき姿を考え、捜査員のニーズに合う技術を見つけ、実現を目指す。最初から完璧な答えにたどり着けるわけではありませんが、警察官や様々なバックグラウンドを持つ同僚と議論しつ、理想を追求する仕事に大きなやりがいを感じています。

VOICE _{若手の声}

刑事警察と技術をつなぐ

刑事企画課は、とりまとめ課として刑事局の要を担っており、私は、課の窓口として庁内や都道府県警察からの様々な依頼や問合せへの対応、各種施策の検討等の業務に加えて、現場の捜査への技術導入等、技官ならではの検討も行っています。

刑事警察というと、まず捜査手法に関する施策が思い浮かぶかもしれませんが、それだけではなく、今、私は、現場の捜査員の業務環境改善に係る指針を都道府県警察に示す業務を行っています。指針を示すに当たっては、現場でどのような業務がなされているかが重要な鍵となるため、様々なケースを同僚の警察官から教えてもらいながら進めています。

一方、現場にどういった技術が導入できるかについては、技官としての経験・知識 を活かし、日々警察官の同僚と議論しながら検討しています。

刑事警察と技術をつなぐ橋渡し役として、刑事警察に貢献できることに、大きな やりがいを感じています。 警察庁刑事局刑事企画課係長

●略歴

令和3年4月入庁

令和4年7月

警察庁長官官房技術企画課情報化担当参事官室 係長

令和5年7月

警察庁刑事局刑事企画課係長

組織紹介



交通企画課

人とクルマが調和した交通社会の制度設計

交通警察に関する制度の企画及び立案、交通統計、交通安全教育及び交通 安全運動等に係る事務を所掌しています。また、道路交通法令の改正作業や 各種計画の策定作業、自動運転に関する制度の企画立案等を行っています。

交通規制課

1億3千万の流れをコントロールする責任

信号制御や標識設置等によって交通流をコントロールし、安全かつ円滑な 道路交通を支えています。また、大規模災害発生時は、速やかな災害対策が 実施できるよう、緊急輸送ルートを確保する重責を担います。

取締りは、事故のない未来への挑戦

道路交通の秩序維持のため、交通指導取締り、交通事故事件捜査、暴走族 対策に係る企画立案等のほか、白バイ・交通パトカーの運用に係る事務を行っ ています。また、放置違反金制度と放置車両確認事務の民間委託を柱とする 駐車対策法制の運用にも取り組んでいます。

全ドライバーの資質を背負うゲートキーパー

運転免許を取得しようとする者への教習・試験、運転免許保有者等への講 習等の充実により安全運転を促進し、運転免許の取消し等により危険運転者 を排除することで、運転者の資質向上を図っています。また、更新時講習の オンライン化等、運転免許関係手続のデジタル化にも取り組んでいます。

社会課題の解決に貢献

社会情勢の変化に対応する交通警察

交通に関する最近の話題というと、ライドシェア や物流の2024年問題が思い浮かびます。また、昨 年くらいから東京では移動手段としての電動キック ボードをよく見かけるようになりました。

こうした社会情勢の変化を踏まえた上で、道路を 利用する多様な主体が安全・円滑に移動することがで きるよう、必要な制度・環境を整えるのが交通警察の 使命です。警察の仕事の中でも、国民にとって最も身 近に感じられる仕事と言っても良いかもしれません。

自動運転の実用化への取組

交通警察の仕事の中でも、私が担当しているのは 自動運転です。

自動運転では、認知・予測・判断・操作を運転者 に代わってシステムが行います。多くの交通事故の 原因が運転者の判断、操作等のミスであることを踏 まえると、自動運転の普及により交通事故のさらな る減少が見込めるのではないかと期待されていま す。ほかにも、運転者不足の解消、公共交通機関が 廃止された地域での移動手段の確保といった観点で も自動運転への期待が高まっています。

このように、自動運転は我が国が抱える社会課題 を解決する手段となり得るため、数年前から官民を 挙げて実用化に向けた取組が活発に進められてお り、「地域限定型の無人自動運転移動サービスを 2025年度目途に50か所程度、2027年度までに100 か所以上で実現」といった政府目標が掲げられてい ます。警察としても、自動運転が安全な形で早期に 実用化されるよう、その進展を支援することとして おり、交通ルールの整備、実証実験環境の整備、研 究開発等に取り組んでいます。

■ 技官が活躍できるフィールド

交通警察の分野では、自動運転をはじめ、技術的 知見が必要な業務が多く存在しており、多くの技官 が活躍しています。

例えば、信号機やそれをコントロールするための 交通管制システム等に関する企画・立案、運転免許 のデジタル化がその代表例です。

国民にとって身近なところで、技術という武器を もって社会課題の解決に貢献できるのが交通警察の 魅力と言えます。



交通事故のない社会を目指して

立場としては総合職技官。しかし、キャリアの中では技術系の仕事ばかりを するわけではありません。

私の警察庁勤務は、警察官が使用する通信機器の整備を行う所属での勤務、 まさに技術系の世界から始まりましたが、現在は交通警察の部門で、自転車に 関する新たな制度の導入に向けた検討を行っています。

新しい制度を導入するに当たっては、時々刻々と変化する社会情勢を踏まえ た問題設定をし、有識者を含む多くの方の意見にも耳を傾けながら検討を重ね た上で、必要に応じて法制上の措置を講じていきます。自転車に関する施策は、 特に国民の日常生活と密接に関わる部分が多いため、より一層責任感を持って 取り組んでいます。

このような新しい制度を考える業務は、一見すると、これまで皆さんが経験 してきた理工系の世界とは違った印象を受けるかもしれませんが、そのプロセ スには研究にも通じる部分が多々あり、随所で学生時代の経験が役に立ってい

交通事故のない社会を目指す。交通警察の使命を果たす日が来ることを信じ て、歩みを続けていきます。

警察庁交通局交通企画課係長

●略歴

令和2年4月入庁

令和3年6月

警察庁情報通信局通信施設課係長

令和4年4月

警察庁長官官房通信基盤課係長

令和4年7月

警察庁交通局交通企画課係長

略歴 平成19年4月入庁 令和5年1月 警察庁警備局警備企画課付 内閣府大臣官房企画調整課経済安全保障 平成26年10月 (サイバー警察局サイバー企画課 推進室参事官補佐 内閣官房副長官補付参事官補佐 サイバー情報担当参事官室総括補佐兼務) 平成28年4月 警察庁警備局警備企画課付 大阪府警察本部生活安全部サイバー犯罪 (サイバー警察局サイバー企画課 サイバー情報担当参事官室総括補佐兼務) 内閣府科学技術・イノベーション推進事務局 参事官付参事官補佐

警備局

警備企画課 国家の秩序を護る

警備警察に関する制度や運営に関 する企画立案、警備警察に関する法 令の調査及び研究のほか、急速に発 展する先端技術を用いて行われるテ 口や犯罪等に関する情報収集及び取 締り等を担っています。

公安課

民主主義を支える

民主主義社会を暴力で転覆しよう とする過激派、極端な国家主義的主 張に基づいて行動する右翼、依然と して多くの信者を抱えるオウム真理 教等に対する情報収集や「テロ、ゲ リラ」事件等の警備犯罪の取締り等 を行っています。

外事課 Nipponを護る

警備警察が扱う事象のうち、主と して外国人が関与するものを扱って おり、例えば、北朝鮮による日本人 拉致容疑事案 北朝鮮等による対日 有害活動、大量破壊兵器関連物資等 の不正輸出、諸外国によるスパイ活 動、先端技術流出等に関する情報収 集や取締り、不法入国・不法滞在者 対策等を行っています。

外事情報部

国際テロリズム 対策課

テロの脅威と闘う

警備警察が扱う事象のうち、外国 人又はその活動の本拠が外国にある 日本人によるテロ等に関するものを 扱っており、イスラム過激派等によ る国際テロに関する情報収集・分析 や国際会議への対応を行っています。

警備運用部

警備第一課

警備部隊の司令塔

警備実施、機動隊の全国的な運用・管理、大阪 万博や国際会議等の大規模イベントにおける警戒 警備に関する業務を行っています。

警備第二課 警衛・警護の要

皇室の方々や内閣総理大臣をはじめとする内外 要人の安全を守る警衛・警護等に関して、全国警 察の指導や計画の審査等の業務を行っています。

警備第三課 危機管理の中枢

大規模災害、重大テロ事案等の緊急事態発生時 に、都道府県警察との調整・連絡をはじめとする 警察庁における事案対応の中核を担うほか、特殊 部隊、国境離島警備隊、原発特別警備部隊等によ る対処等に関する業務を行っています。

雲外蒼天

▲警備警察を取り巻く現状

警備警察では、様々な治安情勢に的確に対応し、 テロ等重大事案を未然に防止して公共の安全と秩序 の維持を図るため、違法行為の取締り、関連情報の 収集・分析に継続して取り組むとともに、機動隊等 の対処能力の向上を図るなど各種対策を推進してい ます。特に我が国は、その位置、地形、地質、気象 などの自然的条件から、台風、豪雨、豪雪、洪水、 土砂災害、地震、津波、火山噴火などによる災害が 発生しやすい国土となっているため、大規模災害等 緊急事態が発生した場合に、迅速・的確に対処して 被害の最小化を図ることが重要な任務の1つです。 また、近年では、国際情勢の複雑化、AI技術、量子 技術等の革新的技術の出現、宇宙・サイバー・電磁 波といった安全保障における新たな領域の誕生等に より、安全保障の裾野が経済・技術分野にも拡大し ており、経済安全保障などのいわゆる伝統的な警備 警察の枠にとどまらない活躍が期待されています。

このような中、我が国の警備警察が組織力を最大 限に発揮するため、警察庁警備局が都道府県警察に 対する司令塔機能を担っているところです。

| 警備警察の一員として

警備警察が対応すべき事象は、日々変化しながら も高度化・巧妙化の一途を辿っており、私たちを取 り巻く様々な脅威は依然として厳しい状況です。こ れらの脅威に対処していく上ではしばしば難しい局 面を迎えますが、その先にある我が国の未来を見据 え、警備警察の一人一人がそれぞれの強みを活かし 弱みを補い合いながら、組織として奮励努力してい

国としてどのような未来を目指すべきかについて は、時代を問わず様々な議論がなされていますが、 私は「日本に住む人々が、何でもないような一日を 送れること」ではないかと考えています。我が国の 未来に向けて、人材、装備資機材、予算及び情報だ けでなく、技術やノウハウなどのリソースをどう活 用していくべきか、様々な専門性を持つ皆さんと一 緒に考えていければと思います。

緊急事態対応の要

大規模地震、テロ……緊急事態は突然発生し、人々の平穏な日常を奪ってし まいます。こうした緊急事態への対応を担っている警備第三課で、私は課内の 科学技術施策等の企画・調整を担当しています。

大規模災害発生時においては、いち早く情報を収集し、適切に部隊を運用す ることが被災地における迅速な救出救助活動につながります。令和6年1月1日 に発生した令和6年能登半島地震では、部隊派遣時の道路の寸断等、様々な課題 に直面しました。当時は、時間を追うごとに亡くなる方の数が増えていくこと に胸が締め付けられました。

こうした経験を踏まえ、今後大規模災害が発生した場合に備えて、様々な検 討を行っています。部隊運用の担当者と共に、効果的な部隊の運用方法や、科 学技術の活用による迅速な情報収集・救出救助活動方法を考え、それに必要な 予算を要求するなど、緊急事態対応の要の組織で国民の安全・安心のために働 けていることに大きなやりがいを感じています。

警察庁警備局 警備運用部警備第三課係長

●略歴

令和3年4月入庁

令和4年7月 警察庁交通局運転免許課係長

警察庁警備局警備運用部警備第三課係長



警察庁サイバー警察局サイバー捜査課係長

「最前線」を一歩先へ

現在私は、サイバー事案の捜査に関する企画・立案や、都道府県警察に対 する指導等を実施するサイバー捜査課で勤務しています。課内では外国捜 査機関との連携に関する話題も飛び交っており、国境を越えて敢行されるサ イバー事案に対して、日本警察が着実に対処を進めていることを実感する毎 日です。

昨年には警視庁へ出向し、サイバー犯罪対策課と捜査第二課で捜査員と しての勤務を経験しました。その中で「こういった捜査ができればいいのに」、 「この課題を解決できれば被疑者の特定により早く結びつくのに」と感じた 点や捜査員から聞いた経験談を基に、警察庁で新たな捜査手法の検討を行 うなど、捜査の現場での経験が現在の業務の原動力となっています。

2年前にも現在と同じサイバー捜査課で勤務していましたが、出向を経て、 警察庁での自分の業務は、捜査の第一線で活躍する都道府県警察のために、 ひいては安全・安心な社会を守るためにあるのだとより強く感じるようにな りました。

警察庁では入庁1年目の研修で、全員が第一線の警察活動を学ぶことがで きます。安全・安心な社会作りに貢献したいという気持ちが少しでもある方 は、是非警察庁を訪れてみてください!

警察庁サイバー警察局サイバー捜査課係長

警視庁本部生活安全部サイバー犯罪対策課主査

警視庁本部刑事部捜査第二課係長

警察庁長官官房会計課係長

未来に供する 警察政策の実現に向けて

私は、会計課で警察庁予算のとりまとめ等を所掌する予算係に所属し、限 られた予算を適正に配分するため、庁内の様々な所属の担当者や他省庁等 と議論を行いながら、政策の目的・課題を明確化し、必要に応じ政策や優先 順位の見直し等を行っており、予算の舵取り役という重要な業務を担ってい ます。

警察庁では、全国警察の司令塔として、警察活動が適切で効率的に行わ れるよう調整を行うほか、治安に関わる様々な政策を企画立案し、実施して いますが、政策を実施するためには、予算が必要不可欠です。

予算は政策の実効性を確保するものであり、いわば政策の要です。私は 日々、予算業務を通して警察における様々な政策に触れ、最前線の警察活動 に大きな影響を与える業務に緊張感を持ちながら、警察政策の根幹を担う 魅力とやりがいを実感しています。

社会情勢や時代の変化を捉え、その時、その時代、そして未来の治安維持 のために必要な政策を企画立案するには多様なバックグラウンドを持つ人材 が協働し活躍することが必要です。国家の治安維持対策は、国民の生活に密 接に関わっているからこそ、警察庁には幅広い仕事とキャリアチャンスがあ ります。

→略歴

令和3年6月 警察庁情報通信局情報通信企画課先端技術導入

警察庁警備局警備運用部警備第三課係長

警察庁長官官房会計課係長

警察庁警備局外事情報部外事課係長

総合職係長として 働くことの醍醐味

外事警察という言葉を聞いたことはありますか?警察庁は、内閣のインテ リジェンス体制の一部として、情報コミュニティ省庁としての側面を持って おり、私が所属する外事課はその一翼を担っています。我が国の国益が損な われることのないよう、諸外国の機関等による違法な情報収集等の対日有害 活動に関し、情報収集・分析に努めるとともに、違法行為に対しては厳正な 取締りを行うことで、外事警察は、国民の安全・安心を守っています。

現在は外事課員として勤務している私ですが、外事課に所属する前は、人 事課で主に採用活動に従事していました。複雑化する治安課題に的確に対 処するためには、警察組織(約30万人!)の人的基盤の強化が不可欠であり、 採用活動をとおして、警察組織を内側から支えることにやりがいを感じました。

以上のように、時には外部からの脅威に対処し、時には内部から警察組織 を強化することで、国民の安全・安心につながる仕事に従事しています。 どの所属においても、何か打ち込めるものを見つけ、それを達成できたとき の喜びは言葉にできないものであり、自分の成長にもつながります。警察庁 は、志高いあなたをお待ちしています。

警察庁警備局外事情報部外事課係長

警察庁交通局運転免許課係長

これからの 警察活動の在り方を決める

私は、警察庁が国民の安全・安心を支えていることに惹かれて、入庁を決 めました。現在は、その中でも特に興味のある交通分野に身を置き、「マイ ナンバーカードと運転免許証の一体化」という大きな政策に携わっています。

現在、政府として、マイナンバーカードと運転免許証を一体化しようとい う動きがある中、警察庁は関係省庁と協力しながら、その実現に向けて取り 組んでいます。これまでの運転免許証の在り方が大きく変わるような免許行 政の大変革期において、現在の業務を担当できていることは非常に誇らしく、 やりがいを感じると同時に、自分の考えがシステムや制度の設計に反映され、 最終的には国民生活、現場の警察職員の業務内容に影響することに大きな 責任を感じています。

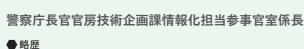
警察庁の大きな魅力の一つは、今後の警察組織全体の在り方を左右する ようなスケールの大きな仕事であふれていることです。常に国民目線に立ち、 柔軟な発想と幅広い視点で考えることに面白さを感じています。

これからの日本の安全・安心を支える仕事に興味のある方は、ぜひ警察庁 で一緒に働きましょう!

●略歴

令和5年6月 警察庁交通局運転免許課係長

Column 1 係長の一日



令和4年4月入庁

令和5年6月

警察庁長官官房技術企画課情報化担当参事官室係長

8時30分 出勤

警察庁の勤務開始は9時30分が基本ですが、 早出・遅出勤務制度を利用し毎朝8時30分に 出勤しています。室内の人数が少なく、静かな 環境で集中して仕事に取りかかることができま す。

10時00分

民間企業から、新たな技術について紹介して 民間企業との打合せ いただき、警察庁において各種業務の高度化・ 効率化のために導入できるか検討を行います。 官民問わず様々な方との交流を持つことで新た な知見が得られます。

12時00分 昼食

毎日、前日の夜に作ったお弁当を持参してい ます。すっきりと午後に臨むため、食後に10分 ほど仮眠を取ることもあります。

また、天気の良い日などは、同期や同僚と、 気分転換に庁舎の外へランチに繰り出すことも あります。

13時30分 幹部への説明

他省庁から閣議決定文書(案)について確認依 頼があり、関係課からの意見等をとりまとめた ので、その経緯や概要、対応方針等について技 術総括審議官等に説明を行います。幹部からの 指摘については、回答に反映するとともに、次 回以降の業務にも活かすよう努めています。

15時00分

都道府県警察との 連絡·調整

全国警察が一体となって推進しているデジタ ル化の施策について、都道府県警察における進 捗状況・実態等を把握するための調査の実施に 向け、都道府県警察の担当者にその意義等を丁 寧に説明します。より良い施策の立案のため、 時には実際に現地まで足を運び、現場の実際の 状況を確認することもあります。

16時30分 会議の前日準備

明日は、警察のデジタル化についてのリモー ト・対面のハイブリッド会議が開催されます。 より良い施策のために活発な議論ができるよ う、リモート回線の確認、会場のマイクの音量 テストなどを確認します。

18時30分 退勤

会議を明日の自分に託せる準備が整ったの で、退庁します。退庁後は、「自分の機嫌は自分 でとる」をモットーに、友人と飲みに行った り、最近趣味として開拓している編み物をした りして、充実したプライベートの時間を楽しん でいます。

CAREER [海外留学]

米・シカゴ大学留学

理系の眼差し、政策の舞台へ

警察庁は今、変革の時期を迎えており、我々技術系の職員は今まで以上に 政策サイドに参画していくことが求められるようになりました。技術の枠を 超えて社会全般に関する知見を蓄え、警察行政にプラスのインパクトを与え られる行政官になりたい。そんな思いから、シカゴ大学で公共政策学を学ぶ ことにしました。

ここでは、統計、ミクロ経済、ゲーム理論といったEBPM (Evidence Based Policy Making)のための基礎となる授業はもちろん、データ分析のためのプ ログラミング、さらに刑事政策や安全保障といった個別具体の政策領域に関 する講義などを履修しています。理論を積み重ねるだけでなく、社会通念や 規範意識から見た結論の妥当性にも重点を置く社会科学特有の視点は、理 系出身者としては極めて新鮮です。

また、外国での生活は新しい発見と刺激に満ちています。キャンパス近く で発生した事件に対して、他国から来た学生の対応が様々である様子を目の 当たりにし、治安に対する認識の違いが人々の行動にどれほど影響を与えて いるかを痛感しました。

インテンシブなカリキュラム、同級生との活発な意見交換、日本の「当た り前」がない生活など、全ての経験が、"Future Policy Leader"という目標に近 づけてくれることを実感しています。



●略歴

平成30年4月入庁

令和元年6月

警察庁情報通信局情報管理課係長

会和2年1日

警察庁生活安全局情報技術犯罪対策課係長

令和3年2月

警察大学校附属警察情報通信学校特別教養部

令和3年8月

警察庁長官官房企画課情報管理システム高度化 PT係長

令和4年8月

米・シカゴ大学留学

米・ジョージ・ワシントン大学留学

これからの行政官として

膨大なデジタルデータが利用できるようになった現在の社会では、データ から新たな知見を獲得するデータサイエンスが注目を集めています。私は、 警察においてもデータを活用した効果的な施策の企画立案を更に進めていく 必要があると考えて、データサイエンスの盛んな米国への留学を決意し、デー タサイエンスのコースを修了しました。

私の学んだジョージ・ワシントン大学の大学院は、首都ワシントン D.C. に位置しています。この街は政治の中心地であるとともに、各国の大使館や 国際機関が建ち並ぶ国際色豊かな場所でもあります。私の大学院も、この街 に劣らず、様々な国の留学生が集まる多様性のある場所でした。

データサイエンスのコースの学生プロジェクトでは、各国の学生と数時間 にも及ぶ議論をしたこともあり、自分とは異なる考えや視点に触れることで 広い視野と柔軟性が得られた貴重な機会でした。

これからも社会は科学技術とともに絶えず変化していくと思いますが、こ の変化に対応していく行政官として、ここで得られた専門性や視野は大きな 財産になると確信しています。



●略歴

平成30年4月入庁

令和元年6月

警察庁情報通信局情報技術解析課係長

令和2年2月

警察大学校附属警察情報通信学校特別教養部

令和2年8月

警察庁長官官房企画課係長

令和4年4月

警察庁長官官房通信基盤課係長

会和4年8日

米・ジョージ・ワシントン大学留学

総務省総合通信基盤局電波部電波環境課電波監視官

電波環境という 社会インフラの維持

皆さんが無線通信と聞いてイメージするものはどのようなものでしょうか。携帯電話や無線LANは情報化社会の基盤技術であり、これらがない生活は考えることも難しいと思います。また、警察無線や航空無線は国民の安全・安心に直接に関わる枢要な社会インフラでもあります。

しかし、無線通信には他の電波による妨害を受けやすいという欠点があります。そこで、そうした妨害の発生を防ぐため、電気機器が放射する電波の強度は一定以下に規制されています。一方、半導体等の製造業において強力な電波の利用が必須となっているほか、家電等からも微弱な電波は放射されているため過度な規制はできません。加えて近年、ケーブルを接続することなく電波を利用してバッテリーを給電できる非接触電力伝送(WPT)技術が精力的に研究されており、こうした新たな技術の社会実装に向けても、規制の在り方を慎重に検討しています。

このように、様々な関係者の話を良く聞き、調整を行った上でスケジュール立てて規制基準を適宜見直すことが私の仕事です。現在は、総務省で仕事をしていますが、警察庁勤務の経験で培ったスキルはどんな場所でも通用するということを日々実感しています。



●略歴

平成29年4月入庁

平成30年8月 警察庁情報通信局情報管理課係長

亚成30年12日

警察庁長官官房総務課企画参事官室係長

令和4年4月

警察庁サイバー警察局サイバー企画課 サイバー情報参事官室係長

/ I/\ HTK9 F

総務省総合通信基盤局電波部電波環境課 電波監視官

内閣官房デジタル行財政改革会議事務局主査

交通×デジタルで日本を活発に

急激な人口減少で顕在化する様々な課題に対し、デジタルを最大限に活用して対応していくという考え方のもと、令和5年10月、内閣総理大臣を議長とする「デジタル行財政改革会議」が設置されました。

昨今、バスが一日に数本しかない、タクシーがつかまらないなど、公共交 通機関による移動が困難な状況が各地で生じています。私は現在、このよう な交通課題を解決し、国民の移動の自由を確保するための政府方針の策定 に携わっています。

「ライドシェア」や「自動運転」というキーワードをニュース等で見聞きしたことのある方は多いのではないでしょうか。交通局での勤務経験を活かし、現在も交通分野の業務を担当していますが、世間からの注目の高さに身が引き締まる思いです。

私は、警察庁での勤務に慣れてきた入庁3年目での他省庁勤務となりました。これまでとの雰囲気や文化の違いにびっくりすることもたくさんありましたが、様々な省庁からの上司・同僚と議論をし、警察庁とは異なる業務の進め方を経験することで、視野を広げられるのが他省庁勤務の魅力です。



●略歴

令和3年4月入庁

令和4年7月

警察庁交通局交通企画課自動運転企画室係長

和5年7月

警察庁長官官房技術企画課情報化担当参事官室 係長

令和5年10月

内閣官房デジタル行財政改革会議事務局主査



警察庁長官官房通信基盤課課長補佐

想像を超えたキャリアステップ

昨年の夏、大学院留学先のイギリスから帰国し、警察庁通信基盤課の課長 補佐になりました。警察活動に不可欠な無線等の情報通信システムなどを全 国に整備するために、計画を立てたり、コストの妥当性を検討したり、限り あるお金をできるだけ活用できるように工夫したりする仕事をしています。

入庁からの7年間を振り返ると、学生時の想像を超える様々な経験をすることができました。みなさんの中には、幅広い業務に携わることに興味を持ちつつも、少し不安がある人もいるかもしれません。ですが、警察庁には充実した研修や経験豊富な職員から学びを得る機会がたくさんあります。

私の大学の専攻は観光科学で、試験区分は森林・自然環境でしたが、技術の観点から治安を守りたいと考え入庁し、1年目の研修後には無線従事者や電気工事士の資格を取得できる知識・技能を習得でき、それ以降の各々のポストで得た知見や留学先で学んだことも、現在の業務に役立っていると実感しています。

学生時代に情報通信やサイバー分野を勉強してきた方々も、そうでない 方々も、みなさん1人1人のキャリアステップを描くことができます。少し でも治安維持や情報通信、サイバーに興味がある方は、ぜひ警察庁を訪問し てみてくださいね。



●略歴

平成29年4月入庁

平成31年4月

警察庁長官官房企画課係長

令和2年2

警察庁警備局外事情報部国際テロリズム対策課

令和3年9月

英・バーミンガム大学留学

令和4年9月

英・ロンドン大学(UCL)留学

令和5年8月

警察庁長官官房通信基盤課課長補佐

警察庁交通局交通企画課自動運転企画室専門官

10年後の国民生活を支える仕事

現在私は交通局において、自動運転の実現に向けた研究開発を担当しています。例えば、自動車メーカーや交通管制メーカーとともに、自動運転の安全な走行を支援する情報提供システムの実証実験を行ったり、国外の自動運転の動向を知るため、諸外国の政府機関職員と情報交換を行ったりと、技術を活用した安全で円滑な交通を目指して日々奮闘しています。

交通という分野は、国民生活に密接に関係しているものであり、例えば新 しいシステムを開発したとき、街中でそれが役立っているところを自分の目 で見られる分野です。

もちろん、できたばかりの技術を活用してゼロから仕組みを構築することは容易ではなく、何度も実績を重ねていくことが必要となります。しかし、今、私が携わっている業務がその実績の1つとなり、10年後、20年後には人々の安全な生活になくてはならないものになっていると思うととてもワクワクします。

様々なミッションを進めるに当たって、ほかでもない自分がチームの方向性を決めて進めているということが、私にとって非常に大きなやりがいとなっています。



●略歴

平成30年4月入庁

令和元年7月

警察庁長官官房企画課係長

令和2年7月

警察庁交通局交通規制課交通管制技術室係長

令和4年4月

警察庁長官官房技術企画課情報化担当参事官室 係長

令和5年7月

警察庁交通局交通企画課自動運転企画室専門官

警察庁長官官房企画課課長補佐

より良い未来へ一歩ずつ

現在、警察では、例えば道路使用許可といった数百に上る申請・届出の各 種行政手続を、原則オンラインで実施できるようにすることを目指して、シ ステム開発を進めているところです。警察では、様々な部署が様々な行政手 続を所管しており、私が所属する企画課は、それらをとりまとめるいわば代 表として参画しています。

過去に経験した別のシステム開発のプロジェクトでも同様のことがありま したが、時には、現時点では解決が難しい制約により理想の選択肢をとれず、 担当として歯がゆい思いで先に進めなければならない場面もあります。それ でも、申請等を行う国民とこれを処理する警察職員という双方の利用者に とって、少しでも「便利になったね」と感じていただけるようなシステムとな るよう、利用者の目線に立って、最善を尽くして一歩ずつ前に進んでいくこ とが大切だと考えています。

警察庁総合職技官には、技術を用いて、様々な分野における仕事を通じ、 国民生活を、警察業務を、より良いものにしていく原動力としての役割が求 められています。そうした仕事に携わる中で、自然と、自分自身も一歩ずつ 成長していくことができるのが、この仕事の魅力だと感じています。



●略歴

平成22年4月入庁

平成23年7月

警察庁情報通信局情報管理課係長

平成27年12月

内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター主査

亚成30年4日

愛知県警察本部生活安全部情報技術戦略課管理官

会和2年9日

内閣官房情報通信技術総合戦略室参事官補佐

会和6年3日

警察庁長官官房企画課課長補佐

警察庁長官官房犯罪被害者等施策推進課課長補佐

新たな政策課題へ挑戦する日々

犯罪被害者等支援は、1980年に犯罪被害者等給付金支給法が制定されるな どとても長い歴史を持っており、国、地方公共団体、民間団体等様々な機関・ 団体が取組を行ってきました。その中で、警察庁は2016年に内閣府から事務 移管を受け、政府全体の司令塔として任務に当たっており、2023年10月には 犯罪被害者等施策推進課を新設するなど対応を強化しているところです。

しかし、被害者や御遺族、御家族の方等から、「被害原因や居住地域に よって、支援内容に差がある」といった声をいただいており、様々な機関 団体が連携して対応するワンストップ体制の構築等が求められています。

警察庁として前例がない政策ツールの検討も含めて日々試行錯誤の連続 ですが、これまでのキャリアパスを通じてその時々の政策課題へ挑戦し続け てきた経験(AI導入を担う組織やサイバー警察局等の立上げ、兵庫県警察サ イバー部門の組織再編等)も生かしながら、現場責任者である課長補佐とし て係一丸となって取り組み、一つ一つ成果に結びつけることができました。

生活のあらゆる側面に結びつき、変化し続ける治安事象という対象を扱う警 察庁の業務は、どの役職になっても新たな課題に向き合うことができ、飽きるこ とがありません。ぜひ皆さんにもこの楽しさを知っていただければと思います。



●略歴

警察庁情報通信局情報通信企画課先端技術導入 企画室課長補佐

令和2年10月

警察庁長官官房企画課課長補佐

会和4年3日

兵庫県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課長

令和5年3日

兵庫県警察サイバーセキュリティ・捜査高度化 センターサイバー捜査課長

警察庁長官官房犯罪被害者等施策推進課課長補佐

Column 2 仕事と育児の両立

警察庁長官官房技術企画課情報化担当参事官室課長補佐

仕事と家庭の両立を目指して

2児の母です。最近、第2子の産休・育休を終え、子どもたちを保育園に送っ てから出勤し、定時で什事を終えて帰宅する生活となりました。

復職に当たっては、短時間勤務や早出遅出勤務、フレックスタイム制勤務 等を活用するなど自分に合った働き方を選択できるため、不安はあまりあり ませんでした。在宅勤務や自宅に近いサテライトオフィスもフレキシブルに 利用できる点も、心の余裕につながっています。これらは、妊娠中で体調が 優れないときにもよく活用していました。

上司や同僚にも子育て経験者が多く、様々なバックグラウンドの職員がそ れぞれに合わせた子育てを経験している中で、互いにカバーし合おうという 意識が自然と働いているように感じます。小さい子どもを育てていると、子 の体調不良で急遽休みを取ったり、早めに仕事を切り上げて帰らなければな らなかったりすることもあります。周囲にフォローしてもらうたび、心強く 感じ、仕事にも一層身が入ります。今後は、個々のライフステージに応じて 柔軟に働き続けられる職場環境を作っていく側の一員として、この経験を生 かしていきたいと思っています。



●略歴

平成25年4月入庁

平成30年8月

警察庁警備局外事情報部国際テロリズム対策課係長

会和2年2日 産休・育休

令和3年9月

警察庁情報通信局情報通信企画課先端技術導入企画室 課長補佐

令和4年8月 産休· 育休

警察庁長官官房技術企画課情報化担当参事官室課長補佐

警察庁長官官房企画課(国際)課長補佐

仕事と育児の両立

私は、第一子が出産する時期に育児に伴う休暇・休業を併せて1か月以上 取得しました。出産の瞬間に立ち会い、産まれたばかりの我が子を抱き上げ、 家族と共に貴重な時間を過ごせたことはかけがえのない経験でした。また、 第二子の出産に際しても、夏季休暇と育児に伴う休暇を組み合わせて1か月 以上の休暇を取得し、円滑に第二子を迎えることができました。これらの制 度の活用に当たっては、事前に上司とも相談し、可能な限り活用できるよう 様々な助言をもらい、非常に心強く感じました。

また、職場復帰後も、新型コロナウイルス感染症の流行した時期は自宅か らリモートワークをしたり、第一子の登園に付き添うために勤務時間の変更 をしたりと、柔軟かつ効率的な働き方を選択できています。個々職員の希望 する働き方が多種多様になる中で、それに対応しようとする職場環境の整備 が驚くほど急速に進んでいることを実感しています。

仕事と育児の両立には、制度に加えて職場の方々の理解と支えも重要です が、当庁ではそのどちらも充実しています。今後は私が、育休経験者として 積極的に最大限サポートしていきたいと思います。



●略歴

亚成27年4日λ庁

令和元年7月

警察庁長官官房企画課係長

令和2年5月

令和2年8月

米・タフツ大学留学

会和4年7日

警察庁交通局交通企画課自動運転企画室課

令和5年8月

音休 令和6年1日

警察庁長官官房企画課(国際)課長補佐



CAREER [都道府県警察本部課長級]



初めて尽くしの都道府県警察への出向

| 京都府警察への出向

警察庁に入庁してから気付けば10年目となり、これまで警察庁の様々な分野で勤務をしました。一方で、1年目の地方実務研修を除くと、都道府県警察への出向は経験がなく、今般、初めて京都府警察へと出向することになりました。出向先の京都府警察では新たに「サイバー対策本部」という部署が立ち上がったばかりで、この対策本部で副本部長兼サイバー企画課長として勤務をすることとなったのです。

「副本部長」という役職は耳慣れないと思いますが、サイバー対策本部のトップである対策本部長の右腕となる役職です。初めての都道府県警察での勤務、そして、新設の部署の新設のポストで、初めて警察官へ身分を変えて、初めて所属の幹部として勤務しています。これまでも様々な部署で勤務をさせてもらい、新しい所属に着任する都度これまで自分になかった視点や知らなかった分野での発見が多くありましたが、今回はこれまで以上に毎日が学びと発見に満ちています。

見在の業務

これまで警察庁で勤務していたときは、内部的な調整や幹部への説明・共有、他機関の事務担当との調整や協議が中心でした。現在は、広報イベント等への出席や、有識者の方とのやり取り、取材対応等が業務の中心になりました。また、警察内でも幹部の方とのやり取りがメインとなりました。新設部署として関心が集まる中で、その所属の代表として様々な方と話をしていかなくてはならない点は責任の重さを感じますが、都道府県警察での業務は現場と近く、自分自身が課長として裁量を持って施策を舵取りしていくのは本当に面白いです。

特に私は、新設部署に着任したので、新しく決めなくてはいけないこともたくさんあります。「今後はこう進めていこう!」、「新しくこんな取組をやってみよう!」と未来を見据えて、様々な取組の方向性を決め、そして、実行に移していくというのは、警察庁での業務とはまた違った楽しさがあり、やりがいを感じています。

デジタル化による組織強化への挑戦

県警察の幹部として

つい数ヶ月前までは、警察庁の係長として庁内を 慌ただしく駆け回っていた私ですが、現在は「こめど ころ」秋田県で情報管理課長として勤務しています。 情報管理課は、情報システムの整備や情報セキュリ ティの確保を通じたデジタル化による組織基盤の強 化を担う所属であり、県警内ではめずらしく警察官よ りも行政職員が多い課です。私は、この課の長とし て、警察のデジタル化の方向性等について本部長、 警務部長といった県警の最高幹部と議論をし、予算 要求、対外交渉、人事管理等に従事しています。

| 組織の課題に一丸となって対処

秋田県は、お米の生産量が多く、比内地鶏、秋田 牛、きりたんぽ、日本酒といった多様な食文化を持 ち、角館の武家屋敷、日本で最も深い湖「田沢湖」 や乳頭温泉を擁するなど観光も盛んですが、人口減 少率が日本で最も高いなど様々な社会課題を抱えて います。県警察としても、特殊詐欺被害や人身安全 関連事案発生が高止まりし、さらに交通事故や野生 のクマによる人的被害が絶えない中で、限られた警 察職員で効果的に県民の安全・安心を確保すること が重要となっています。

当課には、そんな悩みを抱えた県警内の各部各課から様々な要望・相談が寄せられます。現場をもつ各課の抱える課題に対し、予算・技術等の面での実現可能性、費用対効果、法令との適合性等様々な視点から課員とひざを突き合わせて検討を進め、(必ずしも常に満点とはいきませんが)納得できる結果を出し、成果が目の前で現れたときには、その喜びもひとしおです。

| 技官だからこそ見える"風景"

これまで私は、警察庁や警視庁、さらには初任研修の広島県警で、警務部門、捜査部門等の様々な分野において、多くの職員と共に仕事をしてきました。社会においてAIや暗号資産などの新しい技術の利用が進む中で、警察の活動への先端技術の導入はもちろんのこと、こうした技術を用いた犯罪などへの対処にも、技術的な素養を持つ職員が不可欠であると痛感しています。

進展の著しい技術に遅れをとることなくキャッチアップし、現場と全国の目線で警察活動のあり方を模索する、そんなやりがいに満ちた仕事にあなたも是非挑戦しませんか?





CAREER [都道府県警察本部課長級]

静岡県警察本部刑事部捜査第二課長

社会をむしばむ不正を糾す -刑事警察の最前線で-

捜査第二課は、贈収賄を始めとした政治・行政をめぐる構造的不正、企業 犯を始めとした経済的不正、財政侵害事犯といった知能犯捜査を担当します。 これらの中でも、権力で金を得たり、金で権力を得たりするような構造的不 正は、被害が表面化しづらいという傾向があり、横行すると社会構造に深い 溝をもたらすことから、この不正を抉り出すことが当課の重大な使命です。

知能犯捜査では、膨大な資料等から犯罪事実を特定するなど綿密な捜査 が必要となるほか、権力の間にメスを入れるに当たり慎重な対応が求められ ます。こうした中、私は、捜査員と議論しながら最も合理的と思われる判断 を行い、捜査方針等を検察庁等と協議するなど指揮官としての役割を担って います。検挙に至るまでの苦労やプレッシャーは、警察庁における政策立案 等とは性質が異なりますが、仲間と事件検挙という成果を得た際の達成感は ひとしおです。

自身の警察庁への志望動機は、真面目に頑張っている人が報われる公正 な社会をつくりたいという思いでした。様々な事案が生じる中で、県警察と してすべきことは何か、そのために自身は何をすべきか、試行錯誤しながら 理念の実現に向けて日々の業務に取り組んでいます。



●略歴

平成22年4月入庁

埼玉県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課

警察庁情報通信局情報技術解析課課長補佐

内閣サイバーセキュリティセンター参事官補佐

警察庁サイバー警察局サイバー企画課課長補佐

静岡県警察本部刑事部捜査第二課長

(東京2020グループ)

兵庫県警察本部警備部外事課長

組織力で強大な脅威を制す

諸外国によるスパイ活動、国際テロといった脅威は、決してどこか遠い世界 の話ではありません。私たちの社会の中にひっそりと溶け込んでおり、目に見 えていないだけなのです。こうした水面下の不正な活動をあぶり出し、無害化 していく。そのために外事警察は日夜奔走しています。

社会に潜在する不審な動きを見つけ出すには、組織の力を結集した多角的 なアプローチが不可欠です。私も捜査員らと知見や考えを持ち寄って激論を 交わす毎日を送っており、新たな着想が突破口を開いたり、部門の垣根を越え た捜査が結実したりした際には、皆とこの上ない達成感を分かち合っています。

サイバーセキュリティ分野を主とする私の経歴は、今の課内ではまだ異質 な部類ですが、だからこそ、管理職としてのマネジメントにとどまらず、組織 の一端としても新たな価値を創出できるよう、周囲の期待も感じながら日々の 仕事に臨んでいます。

国の行政機関、都道府県警察等と様々な立場で、仲間と共に強大な脅威を 切り崩していく。こうした警察庁総合職の仕事には、尽きることのない面白さ があります。皆さんも警察庁の門を叩き、自分の「警察人生」を紡いでみては いかがでしょうか。



●略歴

平成26年4月入庁

平成30年7月 米・コロンビア大学留学

警察庁警備局警備企画課専門官兼外事情報部

令和3年4月

内閣官房国家安全保障局参事官補佐

兵庫県警察本部警備部外事課長



在トルコ日本国大使館一等書記官

外交官としての責務

トルコは、欧州、中東地域等の結節点として地政学上重要な位置を占め ており、ガザ情勢やウクライナ情勢にみられるように地域及び国際社会に おける外交・安全保障上の影響力をますます高めています。また、シリア、 イラクに隣接し、中央アジア諸国とも関係が近いことから、依然として厳 しい国際テロ情勢に対しても重要な位置付けにあります。

そのような情勢の中、私は在トルコ日本国大使館の政務班に所属し、治 安に関する各種情報収集、トルコ政府関係者及び当地第三国政府関係者 との関係構築等を担当しています。

日本とトルコの友好関係の原点は1890年のエルトゥールル号遭難事件まで さかのぼります。また、地震が多い国同士、過去幾度となく助け合ってきた 歴史がありますので、トルコにおける日々の生活では、日本に対するトルコ の人々の友好的な雰囲気を感じとることができます。一方、トルコは、域内 外の様々な問題に対して積極的に関与する外交姿勢を見せており、外交官 として幅広く国際情勢を理解しなければならないことの難しさもあります。

今年、日本とトルコは外交関係樹立100周年を迎えます。両国が積み重 ねてきた歴史の中で、節目の年に両国の関係深化に尽力できることを大変 光栄に感じています。



●略歴

平成24年4月入庁

平成29年4月

警察庁情報通信局情報技術解析課係長

内閣官房国家安全保障局参事官補佐

警察庁長官官房技術企画課課長補佐

警察庁サイバー警察局サイバー企画課 サイバー情報参事官室課長補佐

令和5年6月

在トルコ日本国大使館一等書記官

国際刑事警察機構 (ICPO) 派遣

Connecting Police for a Safer World

皆さんは、国際刑事警察機構 (ICPO)という組織をご存じでしょうか。イ ンターポールとも呼ばれ、令和5年に100周年を迎えた196もの国や地域 が加盟する、国際犯罪に立ち向かう機関が今の私の職場です。昨今、国際 的にも犯罪者によるサイバー空間の悪用が課題となっており、各国警察の 連携をサポートするICPOの存在意義が非常に高まっています。

"Connecting Police for a Safer World"はICPOのスローガンであり、人的 ネットワークとITによる技術的ネットワークの両方の重要さを表していま す。私のチームは、まさにこの技術的な面を担っており、ICPOにある国際 手配書等の様々なデータベースを加盟国の法執行機関が効果的に活用で きるよう、技術的観点から捜査支援を行っています。これにより、海外逃 亡した国際手配被疑者の発見に至るなどの成果につながっています。

各国から派遣された法執行機関の職員とともに世界の治安向上に寄与 でき、様々な国々と繋がりをもつことにより、日本との懸け橋になるとい う唯一無二の経験は、今後の警察庁での業務でも生かされると確信してい ます。安全な社会を作りたいという志を持った皆さんと働ける未来を楽し みにしています。



●略歴

平成24年4月入庁

平成28年7月

警察庁警備局外事情報部国際テロリズム対策課

平成30年6月

米・ペンシルベニア大学留学

令和元年6月

米・カリフォルニア大学サンディエゴ校留学

令和2年7月

警察庁警備局警備企画課課長補佐

令和4年4月

国際刑事警察機構(ICPO)派遣

CAREER [警察庁理事官級]

警察庁サイバー警察局情報技術解析課理事官

社会を変える 私たちの強み

社会の隅々まで組み込まれていくデジタル技術。スマートフォンをはじめ 多様なデバイスを用いて当たり前にそれが利用される現代では、あらゆる部 門の警察活動において、デジタルデータの解析が欠かせなくなっています。 犯行グループの全貌を明らかにして犯罪を立証するため、一人でも多くの人 を犯罪から守るため…その糸口を、1と0で記録されるデータから見出す技術のスペシャリストたちが、全国に配置されています。

私は、この日本警察の誇る解析能力を高めつつ最大限に発揮するために、政策・人事・予算などを総合調整する、いわば舵取り役です。重大事件の発生に際しては、一刻も早い解決のために広域的に(海すら越えて)リソースを投入することもあり、東京・霞が関にいながらも、現場との「近さ」と確かな「手応え」を感じる日々です。

先に述べたようなデジタル社会となった今、理系的な素養・知見を持っていることは、社会のための仕事をする上でアドバンテージになると言えます。 警察には、それを生かせる幅広い業務分野とキャリアパスがあり、そして、 全国30万人の心強い仲間がいます。

「安全・安心の確保を通じて、社会を元気にしたい!」

この思いに共感していただける方には、警察庁は格好のフィールドである と、自信を持っておすすめします。



●略歴

平成18年4月入庁

平成27年3月

警察庁警備局警備企画課課長補佐

平成29年4月

防衛省整備計画局情報通信課情報化推進室先任

令和3年3月

埼玉県警察本部生活安全部サイバー犯罪対策課長

令和4年8月

警察庁長官官房企画課課長補佐

令和5年2月

警察庁サイバー警察局情報技術解析課理事官

関東管区警察局サイバー特別捜査部企画分析課長

サイバー空間の脅威に立ち向かう

皆さんは、サイバー空間の脅威についてどのように感じているでしょうか? 日々、ランサムウェアによる被害や個人情報の流出事案等が報じられる中で、 不安を感じる方がいるかもしれませんし、フィッシングメールを受信するなど して、身近にその脅威を感じる方もいるのではないでしょうか。

サイバー空間の脅威の背景にある犯罪グループは、サイバー空間の特性を活かして、事後追跡ができないように匿名化技術を悪用するなど、巧妙に犯罪を実行してきます。こうした犯罪グループに対しては、警察が有するリソースを結集し、さらには、海外の捜査機関等と連携しなければ、その対処はおろか、実態解明すら困難です。

私は、こうしたサイバー空間の脅威に立ち向かうため、全国から集結した 捜査員等とともに、その対処方法等について思案し、日々頭を悩ませています。 こうした中で、私自身、国の捜査機関の一員であることを実感するとともに、 サイバー空間の脅威に立ち向かうことに対するやりがいを感じております。

皆さんも、我が国のサイバー空間の安全・安心を確保するために「脅威に 立ち向かう」、そんなやりがいを一緒に感じてみませんか。



●略歴

平成18年4月入庁

平成27年8月

警視庁公安総務課サイバー攻撃特別捜査隊管理官

平成29年8月

警察庁警備局警備企画課サイバー攻撃対策室 課長補佐

平成31年4月

日本サイバー犯罪対策センター派遣

令和5年8月

関東管区警察局サイバー特別捜査隊副隊長

令和6年4月

関東管区警察局サイバー特別捜査部企画分析課長



CAREER [都道府県警察本部部長級]



都道府県警察の組織運営の中核を担う

日本の警察は都道府県警察という単位で運営していますので、都道府県ごとに地域の実情に応じた組織を作り、人を配置して日々発生する事案に対処しています。その中で私の所属する警務部は一般の企業で言えば総合企画と人事を合わせたような部門であり、北海道警察の組織運営の中核機能を有しています。

道警察全体の最適化

一口に組織運営といっても、様々な角度から現状を分析し必要な対策を打ち出していくことが求められます。例えば、人口減少が予測される中で、有限な人的リソースをどのように配分していくかが大きな課題となっていますが、特に北海道は札幌という大都市を持つと同時に広大なエリアを管轄していますので、リソースの配分は死活的に重要です。

その際、サイバー事案対策や犯罪組織の実態解明などニーズが高まっている分野を見極めて重点配分することも求められるため、必然的に人員を減らさざるを得ない部署が生じます。では単純に仕事を削って良いのかということになりますが、警察の場合そうもいきません。

そこで、人数を減らしてもサービスレベルを維持

出来るよう科学技術を活用した警察活動の省力化を 現場レベルで活発に進めています。さらには、今ま でにない分析手法の開発・導入など省力化の範疇を 超えて仕事の仕方そのものを変える動きもありま す。そういった警察版BPRも、警務部が刑事、交通 などの各部門に働きかけて推進するものです。

職員個々の働く環境の改善

一方、組織や仕事の形を変えるだけでなく、職員 一人一人が働きやすいと感じられる環境を整えることも重要なテーマです。例えば、育児に関しては休業制度の導入だけでなく職員全員の意識改革も強力に進めてきましたが、その結果、女性警察官が育児を理由に退職するケースがかなり減少し、夫婦で働き続けるという選択が警察官の中では常識となりつつあります。そのような考え方を浸透させ組織文化を変えていくことも、警務部が主体的に取り組んでいる分野です。

警察組織にも変化が求められる中、技術系人材が必要とされるフィールドは年々拡大しています。このような仕事に興味がありましたら是非警察庁を訪れてみてください。



CAREER [都道府県警察本部部長級]



新時代の担い手たちへ

広がり続ける職域

スマホ、5G、コネクテッドカー、ドローン、暗号資産、AI等々。科学技術の進展により警察が取り扱う様々な事象も複雑・高度化するため、技術系職員へのニーズは増すばかりであり、いまやその職域は警察組織の隅々にまで、さらには他省庁にまで及んでいます。

私自身はどうかと言えば、思い出深いところでは、まず係長時代に情報通信局技術対策課(現サイバー警察局情報技術解析課)において、インターネット定点観測員として交替制勤務に就きました。おそらくは初代の観測員であったのがちょっと自慢です。また、交通局勤務時代には、お台場で行った安全運転支援システム(路車協調型)の実証実験に携わりました。そのとき、カーメーカごとに安全に対するこだわり、哲学がそれぞれ違うことに感心するとともに、各社の技術者達のプロ意識の高さに感銘を受けました。

このほか、内閣情報セキュリティセンターでは政府 のサイバーセキュリティ戦略の企画立案に、内閣衛星 情報センターでは政府の情報収集衛星関連の大規模な システム開発に携わるなど、キャリアを通じて様々な 経験を得ることができました。

そして今春からは、警視庁において、サイバーセキュリティ関連部署をとりまとめ、サイバー捜査官の育成、都民・中小企業向けの広報啓発等に従事しています。

上 先の読めない時代だからこそ

警察庁では、これまでも治安情勢に応じて制度や組織にテコ入れをしてきましたが、この先、自律型生成AI等の革新技術が台頭する新時代の到来に向けて、情勢の変化をいち早くキャッチし、しかるべく対処につなげていくため、これまで以上に総合職技術系の力を求めています。

必要な素養は論理的思考力。足跡なき道を切り拓く 想像力。社会情勢によってガラリと変わる環境への適 応力。これに100点満点ではなくとも解を捻り出すしぶ とさがあれば、あなたはもう立派な人財の卵です。ぜ ひ警察庁を訪れてみてください。



CAREER [警察庁府令職級]

交通のエキスパートを目指して

▲ 志望動機とキャリアステップ

大学院で交通工学を学んでいたときから将来は交通管制を所管する警察で働きたいと考えており、日本全体の道路交通施策に携わりたいとの思いから、都道府県警察ではなく警察庁を志望しました。希望する交通分野で働けるとは限らないと理解した上で採用されましたが、これまで複数回交通のポストで勤務する機会に恵まれました。交通以外でも、情報管理、通信施設、先端技術のほか、内閣官房や県警察警務部など多種多様のポストで勤務しましたが、それらの経験は少なからず交通分野での勤務に役立っており、多様なポストを経験するキャリアステップの重要性を再認識しています。

警察庁と都道府県警察

警察庁交通局での勤務では、交通管制や自動運転に関する技術的施策の企画・立案等に携わっており、都道府県警察に方針を示すなどまさに日本全体の道路交通施策に関わってきました。他方、県警察本部交通規制課での勤務では、信号機や標識の設置

や運用をはじめとする、県民の交通安全に直結する 業務に携わってきました。地方での勤務を経験する ことは、現場の実情や国との関係性を理解できるだ けでなく、その地方に住み、文化や食などを楽しむ ことで人生をより豊かにできると自らの経験からも 強く感じていますし、皆さんにもお勧めします。

| これからの交通管制

現在の職務では、交通管制や交通安全施設の技術 面を所掌しており、信号機や交通管制システム等の 仕様を策定するのが重要な業務の一つです。そして 今は、今後の交通管制をデザインすることに取り組 んでいます。

現在全国に20万基以上整備されている信号機は、これから自動運転車が混在する道路交通環境においてどうあるべきか。AIや5Gなど普及が進みつつある先進技術を組み込んでより高度な交通管制システムを構築することはできないか。これらの課題に向き合い、より安全で円滑な交通を実現していくには技術的知見が必要不可欠です。皆さんにとってもとても魅力的な仕事であると自負しています。





#3# キャリアステップ CAREER [警察庁府令職級]

交通→警務→サイバーへ

□福島県警から警察庁へ

令和4年度から2年間の福島県警出向の後、警察庁 サイバー警察局勤務となりました。福島県には東日本 大震災から10年以上が経過した今も原発事故による帰 還困難区域の避難指示が継続されています。私は、県 警警務部長として、福島の復興・創生を治安面から支 えるため、県警職員がよい仕事ができる環境を整える ことを第一に取り組んでいましたが、今度は一転サイ バーということで、毎日、カタカナまみれの生活とな り、頭の切り替えに苦労しています。

| サイバー事案防止対策室

所属するサイバー事案防止対策室は、フィッシング 報告件数の増加やインターネットバンキングに係る不 正送金の被害拡大などを受け、サイバー事案の防止対 策を推進するために令和6年4月1日に新設された組織 で、技官、警察官、事務官に加え、民間企業からの出向 者など、多様な人材から構成されています。サイバー 空間をめぐる脅威は深刻な状況が続くことが見込まれ

ますが、被害の拡大防止の観点から警察単独でできる ことには限界があります。多様な人材が揃うサイバー 事案防止対策室全体で心をあわせ、関係部門、関係省 庁、関係機関と連携、協力して、サイバー空間の安全と 安心のため対策を進めていく必要性を感じています。

| 警察庁技官の特徴

私は交通警察の経験が長いですが、今はサイバー警 察というように、警察庁技官は様々な分野に配置され ており、ポジションによっては、警察官になったりも します。技官、警察官どちらも警察職員には変わりあ りませんし、どんな分野を担当しようと、人の話をよ く聞いて、現状を把握して、課題があれば解決策を検 討し、調整しながら仕事を進めていくことを心がけて います。

警察は、警察庁という国の組織と都道府県警察とい う地方の組織から構成され、警察庁で採用された技官 も国と地方のどちらにも行く可能性があるというのが 特徴の一つです。好奇心旺盛で、幅広い仕事に携わり たいという方には適した職場ではないかと思います。





疾風に勁草を知る

■警察における先端技術の活用

現在、私は牛成AIなどの先端技術を導入し、警察 活動の高度化を図るというミッションに取り組んで います。先端技術という観点から、警察各部門の業 務を幅広くカバーする室長として、方針の策定や他 所属との調整などに従事しており、これまで警察各 部門や民間団体(JC3)、他省庁で経験したことが、 今の仕事のベースとなっています。

| 入庁後の10年間

入庁後、採用時研修、米国留学のほか、情報通 信、警備、生活安全の各部門で勤務しました。先輩 や、同僚である各都道府県警察からの出向者等に助 けていただき、経験は乏しいながらも責任を果たす べく努力し業務をこなしていました。苦労も多かっ たですが、後に活きる仕事の基本やしぶとさが身に 付いたと思います。

▲ 都道府県警察、海外での勤務

長崎、高知県警察本部で勤務した際には、所属や 部門のトップとして、警察の業務をわかりやすく説 明することなどを意識し、県民のため、組織として 良い仕事ができるよう取り組みました。日々制服を 着て勤務したことや、具体的な警察業務に触れたこ とは貴重な経験であり、生活面を含め、多くを学ん だと感じています。

また、英国勤務を通じて、文化や考え方の違いに 直面し複眼的思考が身に付いたほか、業務で関わる カウンターパートと相互理解を深め、課題解決に向 けて協力を仰ぎ、人と人をつないでいく、ということ が自らの仕事の基盤であるという実感を得ました。

警察庁への期待

入庁当時、私が警察庁に期待したことは、自分の 成長に繋がる経験ができる幅広い活躍の場でした。 振り返ってみると、同僚や民間、海外のカウンター パートとつながりを得て印象的な仕事をし、知見を 広めることができたと感じています。

皆さんはどんな仕事をしてみたいですか。

警察庁は、世界に誇る治安のため、いざというとき に頼りになる組織であることが期待されています。国 内外の専門家と力を合わせ治安課題の解決に貢献す るというミッションに、知的好奇心を強くくすぐられ る方々と共に勤務できることを楽しみにしています。

第3部 キャリアステップ CAREER [都道府県警察本部長] 奈良県整窓 奈良県警察 奈良県警察

中縄県警察本部刑事部捜査第二課長

平成25年3月 警察庁情報通信局情報技術解析課理事官

警察庁生活安全局情報技術犯罪対策課官民連携推進官

デジタル庁国民向けサービスグループ参事官

奈良県警察本部長

技術系総合職としての警察本部長

警察本部長に着任して

令和6年3月29日、奈良県警察本部長に着任しまし た。着任当日の記者会見において、奈良県の治安を守 るという重責に身の引き締まる思いであること、技術 を用いて警察業務の強化・合理化に取り組みたいこと などについて話しました。

警察本部長という立場から様々な人と会う機会があ りますが、「本部長は技術系なのですね。」と言われる ことが多く、また、サイバー犯罪等に話題が及ぶと「本 部長の専門分野ですね。」などと言われます。

サイバー分野に限らず、複雑多様化する警察事象に 適切に対応するため、技術を用いて警察の対処能力を 高めること、業務の効率化を図ることで必要な人員を 必要な業務に集中させることが求められており、情報 技術を含む各種技術の活用や、技術的な視点を持って 業務を進めることが期待されていると感じています。

一奈良県警察本部長の業務

奈良県は、県内各地に多数の国宝、重要文化財が所 在するほか、自然にも恵まれており、国内外から多く の観光客が訪れます。また、県内には大阪のベッドタ ウンや過疎地域といった異なる特徴を有する地域が存 在しています。

このような奈良県において、日々発生する事件、事 故への対応やこれらの発生を未然に防止するための対 策等を進めています。その中でもSNS型投資・ロマン ス詐欺の被害急増を踏まえた緊急の対策や、先端技術 を用いた警察業務の高度化・効率化、ワークライフバ ランスが確保された働きやすい職場作り、少子高齢化 社会における警察力の確保方策といった中長期的な対 策等、現在、そして将来にわたり県警察が組織の総力 を結集して社会情勢の変化を踏まえた治安対策を推進 できるよう県警察の運営に取り組んでいます。

技術系総合職に求められること

県警察の捜査第二課長として汚職、詐欺等の捜査に 従事したときには、押収した電子機器等の解析が犯罪

捜査に不可欠であることを実感しました。その後従 事したサイバー犯罪対策、サイバー攻撃対策におい ても、次々と新たな手法で行われる犯罪に技術的に 対応することの重要性を目の当たりにしました。そ して、現職でも、サイバー空間を舞台とした犯罪の 捜査、警察業務のDX推進等、様々な場面で技術に 接しています。

このほか、サイバー、国際組織犯罪等の分野にお いて外国捜査機関との国際捜査会議、共同オペレー ションにも参加し、犯人を捕まえる、被害の拡大を 防止するといった共通の目的を持った各国の仲間 と、それぞれの国でできることを持ち寄って結果に つなげる経験もしました。

自分自身の経歴を振り返ると、警察庁内の様々な 所属、県警察、他省庁、国際機関と様々な業務を経 験してきましたが、いずれも技術的知見と経験を基 に業務を行ってきました。

社会から求められる警察の役割は多岐にわたり、 技術系総合職には警察の様々な分野において技術的 知見を用いて活躍することが期待されています。





奈良県警察本部長 国際刑事警察機構(ICPO)事務総局派遣



総合職技術系職員への期待

情勢の変化への対応

警察では、これまでも全国的な業務処理のための汎用コンピュータの導入、複雑・多様化する犯罪に対応するための各種システム・業務アプリケーションの開発、システムの信頼性を保持しつつ効率性を高めるためのサーバ・クライアント化やクラウド化など、刻々と変化する犯罪等の情勢や技術発展に応じた様々な施策を実施してきました。

しかし、近年における科学技術の発展は著しく、これまで以上に社会に大きな変革をもたらしています。政府を挙げて社会のデジタル化に向けた取組が進められているところであり、警察としてもAIなど最新の科学技術の利活用を通じて、警察活動の更なる高度化・効率化を図っていくことが不可欠です。

総合職技術系職員に求められること

こうした中、総合職技術系職員には、警察活動の 第一線の要望に応えるべく、技術的な素養と専門的 な知見を有する行政職のリーダーとして、全国警察 の技術部門を牽引していくことが求められます。ま た、時には警察官として警察本部の運営に携わるこ ともあります。

私は高校の数学教師になることを目指して大学に入ったのですが、途中で国家公務員へ志望を変え、警察庁に採用されました。専門は数学であり、何も技術は持っていなかったのですが、これまで30年余り務める中で、警察庁や3都県警察の交通規制・管制分野で計13年勤務をし、結果として今ではこれが専門分野であると自負しています。

私のように採用時に直接生かせる技術力や専門性を持っていない方でも、採用後の学校教養や実務研修等を通じて必要な知識を身につけることができますので安心して下さい。

メッセージ

本誌で紹介されているとおり、総合職技術系職員の活躍の場は国・地方、警察のほぼ全ての分野、他省庁や外国機関に至るまで多岐に渡っており、自分の専門性を生かせる分野で活躍することも可能です。

「自身の意欲と能力で、国民の安全・安心を守っていく」という崇高な意識をお持ちの方々には、とても魅力のある職業だと思います。





CAREER [警察庁技術総括審議官]



技術政策の司令塔として

入庁の動機

このパンフレットを御覧になっている方、自分の将来にいろいろと思いをはせているのではないでしょうか。私の場合は、35年以上前の就職の際、多くの同期学生が民間を含めた研究職を志望していたのですが、特定の分野の研究職として働き続けるよりも理系の知識、素養を生かした行政官になりたい、特に国民の安全・安心に寄与したいと思い警察庁に入庁しました。

幅広い業務経験

警察庁では、入庁時に思い描いたとおり、警察の神経系である警察通信はもとより幅広い業務を経験することができました。例えば、交通管制や警察情報システムの整備計画の策定から、交通情報を提供する株式会社への派遣、郵政省への出向、岐阜県警察への出向、オランダ留学等いろいろな業務に携わることができました。それぞれの業務においては、困難に直面し、くじけそうになったときもありましたが、それを乗り越えてやりきったときの達成感ややりがいは忘れ

られません。このように国民の安全・安心の確保につ ながる幅広い業務に携わることができることが大きな 魅力です。

技術政策の推進

現在は、警察庁長官官房技術総括審議官として、警察における技術政策推進の司令塔の役割を担っています。少子高齢化や複雑巧妙化する犯罪情勢を踏まえると、限られた人員で最大限の警察力を発揮する必要があり、警察活動の高度化・合理化は不可欠となっています。そのため、AIやドローンをはじめとする先端技術を活用するなど、警察の科学技術政策やデジタル化の推進を図っています。また、警察情報システムや警察通信施設の一体的な整備や業務改善にも取り組んでいます。

今後とも、急速に進展する技術革新に応じた一層の 科学技術導入が求められていますので、このような将 来を見据えた業務を担っていただける、技術系の知 識、素養を有する学生の警察庁総合職技術系職員とし ての入庁を期待しています。

研修·採用

採用後の研修ステップ

警察大学校附属警察情報通信学校入校



入庁後約4か月間は、警察大学校附属警察情報通信 学校に入校し、警察業務や組織の概要、行政や法令の 基礎、技術などに関する講義・実習を受けます。この 研修を通じて、警察職員としての基本を身に付けるこ とができます。

─ 詳しくは44ページへ

地方実務研修 (府県情報通信部)



警察大学校での研修が終わると、警察庁の地方機関である府県情報通信部で約5か月の実務研修を受けます。警察活動の基盤である警察通信施設の整備・維持管理、大規模警備や災害発生時における通信手段の確保、犯罪捜査に関する技術支援といった業務に従事し、第一線の警察活動における技術系行政官の業務や役割について理解を深めます。

── 詳しくは45ページへ

地方実務研修(府県警察)



府県情報通信部での研修に引き続き、府県警察本部において約5か月の実務研修を受けます。警察本部、警察署、交番、事件・事故現場といったところで、捜査活動や防犯活動等の各種警察業務に携わります。特に、サイバー犯罪捜査の研修では、実際に自ら犯罪捜査等の業務に関わる機会もあります。実務の経験を通じて警察業務への理解を深めるとともに、現場の声を直に聞くことができる貴重な期間です。

→ 詳しくは46ページへ

警察大学校附属警察情報通信学校入校

警察業務や組織の概要、行政や法令の基礎、技術などに関する講義・実習を受け、 警察職員としての基本を身に付けることができます。





附属警察情報通信学校 令和6年4月入庁

警察教養のこころ

警察情報通信学校では、法学、術科等の他、技官としての教養を学んでおり、優秀な同期、素晴らしい教官に支えられて、日々楽しく充実した生活を送っています。

警察組織の技術分野を担う技官には、デジタル・サイバー分野を中心に幅広い知識が求められており、私自身入校前に不安な思いはありましたが、今まで馴染みのなかった分野でも基礎から学び、更に演習を通じて理解を深めることができました。例えば、通信技術ではアンテナを設置して、映像伝送する演習や可搬衛星装置の開局・運用を行う演習、また、サイバー解析技術ではスマートフォン・パソコン解析演習等があり、刺激的な講義ばかりです。

警察庁総合職技官としての自覚を持ち、警察大学校での学びを胸に、引き続き国民の安全・安心のために研さんを積んでいきたいと考えています。



附属警察情報通信学校 令和6年4月入庁

警察職員としての誇りを胸に宿して

私達は、警察情報通信学校で警察活動に必要な技術に加えて、法学、 実務、柔剣道等、幅広い授業を受け、警察職員としての第一歩を踏み 出します。

これまで触れることの少なかった法学も、基礎的な内容から学べるほか、同期との議論や先生への質問を通して理解を深めることができます。実務に関する授業では第一線の警察職員の方に講義していただき、警察活動の実状を学びます。また、柔剣道の授業も警察職員として欠かせない教養の一つです。

この研修では必要な知識を得られるだけでなく、より安全・安心な 社会のために警察職員として何をするべきかを考えるきっかけをもら えます。これからはここで学んだこと、感じたことを胸に、国民の生 活を守るために全力で職務にあたっていきます。

地方実務研修 (府県情報通信部)

警察大学校での研修が終わると、警察庁の地方機関である府県情報通信部で約5か月の実務研修を受けます。警察活動の 基盤である警察通信施設の整備・維持管理、大規模警備や災害発生時における通信手段の確保、犯罪捜査に関する技術支援 といった業務に従事し、第一線の警察活動における技術系行政官の業務や役割について理解を深めます。

地方実務研修 (府県警察)

府県情報通信部での研修に引き続き、府県警察本部において約5か月の実務研修を受けます。警察本部、警察署、交番、事件・事故現場 といったところで、捜査活動や防犯活動等の各種警察業務に携わります。特に、サイバー犯罪捜査の研修では、実際に自ら犯罪捜査等の業 務に関わる機会もあります。実務の経験を通じて警察業務への理解を深めるとともに、現場の声を直に聞くことができる貴重な期間です。





関東管区警察局 千葉県情報通信部 令和5年4月入庁

警察活動を支える システムをつくる

全国の警察職員が業務で使用する専用回線 の電話や無線といった情報通信システムを整 備・運用することが、都道府県情報通信部の 業務の一つです。通信施設課では、警察署を 移転するとき、新しく無線の基地局を設置す るときなどに、通信機器を整備する工事の仕 様書(配線系統図や庁舎の図面)を作成しま す。このとき、いかに機器を利用・メンテナ ンスしやすくなるように構成できるかが面白 いところです。

実際に図面を引くことで、様々な警察の通 信系統を俯瞰的に学べ、とても勉強になりま す。警察の活動を支える通信システムをどの ように高度化していくか、効率化するにはど うすればよいかを考える上での基礎知識を、 通信施設課研修で得ることができました。



九州管区警察局 福岡県情報通信部 令和5年4月入庁

安全のために

地方実務研修中、情報通信部機動通信課に おいて、花火大会の雑踏警備に従事しました。 何十万人もの人出が見込まれる大規模なイベ ントにおいては、事故の未然防止を図ることが 重要です。県警の警察官と連携し、警備に必 要な情報通信システムを駆使して、会場や周 辺道路の映像を警察本部に送信し、部隊のた めの無線通信網を構築するなどの対策を行い

実際に業務を経験することで、これまで観 客として楽しんでいた花火大会の裏側には、 安全のために尽力している多くの警察職員が いたことに気づかされました。そのような方々 に感謝の気持ちを持つと同時に、これからは自 分自身が力になれるよう、日々精進していきた いと思います。



大阪府警察 令和5年4月入庁

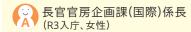
警察活動の第一線

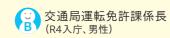
府県警察の研修では、警察本部の様々な所 属や警察署において、警察の業務に関する基 礎的な事項や各所属の特徴を学ぶことができ ました。特に、警察の無線機や事件捜査のた めに整備されたシステムを自ら使うことで、 現場における技術の利活用の実態を把握で き、警察活動を技術で高度化していくために 必要な警察活動自体について理解を深める良 い機会となりました。

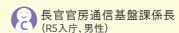
研修期間の後半は警察官の身分で、サイ バー犯罪捜査に従事しました。張り込みや捜 査報告書の作成といった捜査の基本業務を経 験するとともに、IPアドレスの調査やイベント ログ精査といったサイバー犯罪捜査ならでは の経験もできました。研修期間中には、自分 が捜査に関わった事件がニュースになり、警 察の業務が社会に与える影響の大きさを身に しみて感じました。

府県警察研修を通じて現場の課題について 身をもって感じることができ、今後の警察庁 での職務において高度化・効率化を検討して いくべき点を見つけるための貴重な経験を積 むことができました。そして何より、自分が 国民の安全・安心を守る一員になったことを より実感できました。

若手Interview







----まずは、警察庁を志望した理由を教えてください。

- A:人の役に立つ仕事がしたいという思いから、公務員になりたいと思ってました。その中で、安全・安心を守るという警察庁の仕事は、人々の生活の根本を支えることであり、人の役に立つ仕事の究極の形だなと感じて志望しました。
- B: 親戚が警察官だったので、小さい頃から警察に憧れがありました。理系に進んでからは科学捜査に興味を持ってたところ、調べるうちに警察庁の総合職技術系を知って、技術だけでなく政策や警察行政にも幅広く携われることに魅力を感じました。
- A: なんか面接みたい(笑)

全員:(笑)

- C: 警察庁の採用説明会に参加したときに聞いた、「警察は困っている人がいればあらゆる法令・技術を駆使して助けます」という言葉が印象に残ってます。公務員とか行政って縦割りな印象があったんですけど、「助けます」と言えるのがいいなと。
- B:かっこいいね。警察庁ではどんな仕事がしたいとかある?
- C: 今は交通部門に興味がありますね。地方研修で、道路交通の安全の実現のためには、信号を作るだけでなく、信号の制御はもちろん、交通安全教育などを組み合わせていくというのを教えていただいて、興味深い分野だなと思いました。
- A:確かに、私もそれ地方研修で学んだな。
- B:僕が今担当している業務は、交通部門の中でも今話題に上がった交通管制とはまた違って、運転免許証とマイナンバーカードの一体化に関するものなんですけど、運転免許に関係するシステムには詳しくなれたので、それ以外のシステムについてももっと勉強して、警察活動の高度化や国民の利便性の向上などにつなげたいですね。

一職場の雰囲気はどのような感じでしょうか。

A:私の部署は、国際関係の業務を行っているので、海外経験 のある人も多くて、すごくフラットな雰囲気です。挨拶で握

- 手や肩をたたき合うようなのもよく見ます。これは警察庁の特徴ではないかもしれないけど(笑)
- B:僕の部署は、警察らしく、皆さん礼儀正しいなと感じました。 あと、僕の上司は休暇の取得にすごく理解があって、休み を取りやすいです。もちろん、タスク管理と必要に応じた引 継ぎは大事ですが、そのあたりもしっかり組織的にフォ ローしてくれます。
- C:警察大学校の研修時は、僕の大学時代の専攻とは全然違う情報通信やIT系の勉強に少し苦労しましたが、講義では基礎からしっかり教えてもらえましたし、工学系専攻だった同期にも助けてもらいながら、すごく充実した期間を過ごせたなと思います。
- B:僕も大学では化学を専攻していたので、分野としては全く 違いましたけど、不安に感じたことはなくて、むしろ、「勉 強頑張ろう!」という前向きな気持ちでした。理論的な考え 方とか、物事を順序立てて説明する力とかは、大学で学ん だことが今でもしっかり活きているなと思います。
- A: 私も生物専攻だったので警察とはあまり親和性がないかなと思ってたけど、先輩方にも同じ分野専攻で活躍している方がいるっていう話を聞いて、じゃあ自分も挑戦してみようと思うきっかけになりました。

―――最後に学生の皆さんにメッセージをお願いします!

- B: 不安なこともいっぱいあると思いますし、頑張らなきゃというプレッシャーも感じると思いますが、気負いすぎずに自分をしっかり出して、楽しく生きていけるような職業選択をしてください。
- **C:** 見栄を張らず、自分に嘘をつかず、自分が本当にやりたいことをしっかり見極めて就職先を選んでほしいなと思います。それがもし警察庁であれば、僕たちとしては嬉しい限りです。
- A:二人が良いことを言ってくれたのでもうあんまり言うことはないんですが(笑)、飾らず等身大の自分で勝負することが、結果的に後悔のない道に進めることにつながるんじゃないかなと思います。皆さんが良い選択ができるよう、私たちは全力で応援しています!



Q どの試験区分から採用していますか?

警察庁は、理系の素養を持った方であれば、専攻にかかわらず採用しています。「デジタル」「工学」「数理科学・物理・地球科学」「化学・生物・薬学」「農業科学・水産」「農業農村工学」「森林・自然環境」、さらに「教養」と幅広い試験区分から採用予定です。様々なバックグラウンドを持つ先輩たちが、幅広いフィールドで活躍しています。

国家公務員試験の順位は 選考に影響しますか?

国家公務員試験の順位は選考に影響しません。警察庁は、人物本位の採用を行っています。採用担当として、あなたという「人」を見たいと考えています。

Q 試験区分や大卒・院卒といった 区分によって有利・不利はありますか?

有利・不利はありません。警察全体として様々 な分野の科学技術に幅広く対応していくため、警 察庁は多様な分野の人材を求めています。

Q 試験区分によって 採用後の業務に違いはありますか?

A 違いはありません。どの総合職若手職員も、入庁後の個人の適性・能力などを総合的に判断して、適切な所属に配置されます。若手のうちは、あらゆる分野の業務に就くので、幅広く経験を積むことができます。

採用に当たって体力面やスポーツ・ 柔道・剣道などの経験は問われますか?

A 問われることはありません。総合職技術系で、柔道 や剣道など経験がある職員もいますが、スポーツ等 の経験に関わらず、職員それぞれがその能力・個性を 発揮して活躍していますので、ご安心ください。

大学での専攻は活かせますか?

A 総合職技術系の職員として、幅広い科学的素養、論理的考察力、柔軟な発想力、コミュニケーション力といった、勉学や研究の過程を通じて培われた総合的な力が求められます。また、各職員は、様々な専攻での経験を直接的、間接的に活かして業務をしており、多様な専攻の出身者が集まっていることで、分野横断的な解決策が生まれることもあります。ぜひ、あなたのこれまで培った能力を警察庁で発揮してください。

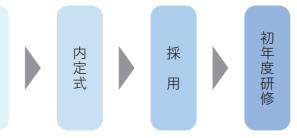
採用実績

働きやすい職場に向けた取組

官庁訪問から採用へ

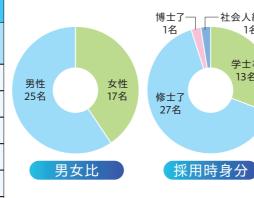
●官庁訪問(令和6年6月現在)

- ・受験者が志望官庁を訪問し、業務説明や面接を受けるもので、志望 府省庁に採用されるための重要なステップです。
- ・第1クールから第4クールまでの4回の訪問を通じて行われます。
- ・訪問先府省庁の様々な役職の職員と話をすることができ、府省庁の 雰囲気を知り、業務内容をより深く理解する機会となります。



採用実績(過去6年分のデータ)

入庁 年次	人数	男女		採用時身分			
		男性	女性	学士卒	修士了	博士了	社会人 経験者
平成31年	8	5	3	5	3	0	0
令和2年	9	5	4	4	3	1	1
令和3年	8	3	5	2	6	0	0
令和4年	5	4	1	1	4	0	0
令和5年	3	3	0	0	3	0	0
令和6年	9	5	4	1	8	0	0



※上記のほか、中途採用も実施しています

誰もが働きやすい職場を目指して

両立支援制度

育児・介護と仕事の両立を支援する様々な制度があります!

(例) 産前産後休業(産休)

産前6週間、産後8週間までの期間で取得可能。 男性は「配偶者出産休暇」という制度が活用可能。

育児休業(育休)

子どもが3歳になるまでの間、一定期間取得可能。 男性女性ともに取得可能!

育児や介護に関わる職員をはじめ、多くの職員が朝の時間 や退勤後の時間を有意義に活用するためフレックスタイム 制や早出遅出勤務を活用しています!

働きやすい職場づくり

働き方が多様化する中、業務の合理化・効率化を含む 新しい時代にふさわしい活力ある職場づくりに持続 的に取り組むため、「職員個々がその力を発揮できる 職場づくりワーキンググループ」が設置され、そこで 様々な取組を検討・推進しています!

- ●フレックスタイム制や決裁の合理化 についての周知
- ●先輩職員との座談会



— 社会人経験者

1名

学士卒

13名

採用担当からのMessage

皆さん、こんにちは!

私たちは、警察庁総合職技術系行政官の採用担当です。

警察庁のパンフレットを手に取っていただき、ありがとうございます。

このパンフレットでは、科学技術の進展が正・負両面で世の中を変革し続けている現代社会において、生活や 経済活動の根幹をなす「安全・安心」を様々な分野で実現しようとする技術系行政官の姿を取り上げました。

しかし、紙面の都合上、取り上げることができたのは、ごく一部でしかありません。

警察庁では、多様な専攻の出身者が、その能力に警察庁入庁後の経験を加えて、社会で起きる課題に対応すべく 奮闘しています。

私たちは、あなたに、警察庁のミッションや課題、そしてそこで働く職員の姿や人となりをよく知ってもらい、 「警察庁で働く」ということへの理解を深めてもらいたいと願っています。

そのため、このパンフレットに加えて、「安全・安心」の実現を目指している職員の生の声や、業務の魅力をお伝え するため、警察庁では、業務説明会に加え、テーマ別の講演会、若手職員の座談会、職員訪問、ワークショップなど、 様々なイベントを企画しています。

ぜひ、イベントにもご参加いただき、職員の話などを通じて、「警察庁で働く」魅力や意義に触れてください。

あなたに会えることを楽しみにしています!

警察庁総合職技術系行政官 採用扣当一同